

第三十七回 衆議院議事速記錄第二十三號

大正五年二月十日(木曜日)午後一時二十九分開議

議事日程 第二十二號 大正五年二月十日

午後一時開議

- 第一 郵便法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉(族院送付)
- 第三 鐵道船舶郵便法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉(族院送付)
- 第五 電信法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉(族院送付)
- 第七 海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉(族院送付)
- 第九 銀行條例中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十 貯蓄銀行條例中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十一 商業會議所法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十二 罹災救助基金法中改正法律案(伊藤義平君外十九名提出) 第一讀會
- 第十三 裁判所構成法及辯護士法ヲ臺灣ニ施行スルノ法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會
- 第十四 行政裁判及訴願ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會
- 第十五 明治三十九年法律第三十一號中改正法律案(廣岡宇一郎君外八名提出) 第一讀會
- 第十六 齒科醫師法中改正法律案(綾部總兵衛君外七名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十七 狩獵法中改正法律案(伊東知也君提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十八 社寺上地下屋ニ關スル法律案(齋藤隆夫君外四名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十九 軍人恩給法中改正法律案(高水正年君外十名提出) 第二讀會
- 第二十 軍人恩給法中改正法律案(水津太郎平君外二名提出) 第二讀會
- 第二十一 軍人恩給法中改正法律案(柏原文太郎君外一名提出) 第二讀會

第三十二 鐵道建設ニ關スル建議案(松田源治君外四名提出)

第三十三 地方裁判所支部權限復活ニ關スル建議案(樋口秀雄君外三名提出)

第三十四 殖民省設置ニ關スル建議案(櫻井兵五郎君外一名提出)

第三十五 鍋田川及水曾川ノ一部改修ニ關スル建議案(三輪市太郎君外五名提出)

第三十六 輸出品粗製濫造防止ニ關スル建議案(小山松壽君提出)

第三十七 名古屋富山間鐵道建設ニ關スル建議案(三輪市太郎君外一名提出)

第三十八 區裁判所復舊ニ關スル建議案(福井三郎君外三名提出)

第三十九 蠶絲業振興發達ニ關スル建議案(今西三郎君外二名提出)

第三十 中等教員優遇ニ關スル建議案(河野正義君外三名提出) (委員長報告)

第三十一 財團法人同仁會事業國庫補助ニ關スル建議案(山根正次君外二名提出) (委員長報告)

第三十二 敦鵠鐵道速成ニ關スル建議案(山口嘉七君外三名提出) (委員長報告)

○議長(島田三郎君) 新タニ議席ニ著カレマシタ方ヲ御紹介致シマス、氏名ヲ讀上グマシタ時御本人ノ起立ヲ望ミマス、二百一番新潟縣郡部選出議員中野實一君(中野實一君起立)

(拍手起立)

○議長(島田三郎君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

一 東洋拓殖株式會社法中改正法律案

一 政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

大正五年二月十日

內閣總理大臣伯耆大隈重信

衆議院議長島田三郎殿

衆議院議員石橋爲之助君提出對米及對支外交ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員石橋爲之助君提出對米及對支外交ニ關スル質問ニ對スル答辯書

辯書

一、對米外交ニ關スル件

米國移民法ノ改正ハ同國議會多年ノ懸案ニシテ本期議會ニ於テモ同法ノ全部又ハ一部改正ヲ目的トスル諸法案ハ上下兩院ニ提出セラレ目下各當該委員會ニ於テ審議中ニ屬シ既ニ委員會ヨリ下院本會議ニ報告濟ノモノモアリ前題法案ハ其ノ數

多ク又條文浩翰ナルモ大體ニ於テ前期議會ニ提出セラレタルモノト大差ナク特ニ日本移民排斥法案ト稱スヘキモノナシ右移民法改正法案ノ外東洋人排斥ノ意ヲ有スル數種ノ法案ハ亦前期議會ニ於ケルト同様提出セラレタルモ未タ何等注意スヘキ發展ヲ見ルニ至ラス

此種ノ立法ニシテ日米ノ親交ヲ阻害スルノ虞アリト認メラルモノニ付テハ政府ハ國交ノ通義ト正理ノ觀念トニ顧ミ該案ノ成立スルカ如キコトナキヲ庶幾シ此ノ目的ノ爲駐米帝國大使ヲ督シテ機宜ノ措置ヲ怠ラサラムコトヲ期ス

二、對支外交ニ關スル件

昨夏以來支那ニ於テ漸ク勢力ヲ得ルニ至リタル帝政再興ノ議ハ十月ニ入リテ愈其歩ヲ進メ參政院ハ其六日國民代表大會組織法案ヲ議決シ國體問題決定ノ機關タラシメントシ該法ハ九日大總統令ヲ以テ公布セラレタルニ至レリ然ルニ支那各地ノ裏面ニ於ケル帝政反對ノ氣勢尙ハヘカサルモノアリト認メタルヲ以テ帝國政府ハ帝政實行ニ伴フ各地ノ擾亂ヲ虞レ之ヲ未然ニ防キ以テ支那秩序公安ノ維持、延テ東洋平和ノ確保ヲ得ンコトヲ欲シ支那政府ニ勸告スルニ帝政ノ實行ヲ延期センコトヲ以テシタリ右勸告及之ニ對スル支那政府回答ノ顛末ハ曩ニ十二月七日日本議會ニ於テ本大臣ヨリ報告ニ及ヒタル通ナルカ其後支那政府カ帝國政府及關係國政府ニ向テ言明シタル所ヲ綜合スレハ支那政府ノ意向ハ帝政ノ實行ハ多少ノ延期ヲ免レス支那政府ハ其責任ヲ以テ治安ヲ維持スヘシト云フニ在リタリ之ヲ以テ帝國政府ハ關係各國政府ト共ニ右支那政府ノ言明ニ暫ク時局ノ發展ヲ注視セントスル旨十二月十五日ヲ以テ支那政府ニ申入レ置キタル處其後雲南ニ於テ帝政反對ニ基ク動亂起リ南方一帯ニ於ケル不安ノ情況更ニ著シキヲ加ヘタルカ支那政府ハ本年一月二十一日我在支公使及他ノ關係各公使ニ對シ帝政ハ陽曆二月上旬實行ノコトニ決定シ居タルモ雲南事件ノ勃發及雲南討伐軍未タ雲南ニ到達セザル等ニ顧ミ右決定ヲ取消スコトト確定シタル旨公然通知セシムルニ至レリ若シ夫レ今後帝國政府ノ取ルヘキ措置ニ付テハ今日之ヲ言明スルコトヲ得ス

右及答辯候也

外務大臣男爵石井菊次郎

一、貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

郵便法中改正法律案

鐵道船舶郵便法中改正法律案

電信法中改正法律案

海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律案

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

取引所令中改正ニ關スル建議案

提出者 加賀卯之吉君

三國港護岸施工ニ關スル建議案

提出者 名村忠治君

大橋松二郎君

東北六縣國有林野下戻處分ニ關スル建議案

提出者 半谷清壽君

安房鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 小林勝民君

村松山壽君

今村七平君

山口嘉七君

鈴木久次郎君

金玉均表彰ニ關スル建議案

提出者 小林勝民君

小久保喜七君

農會法中改正法律案

提出者 齋藤宇一郎君

川崎安之助君

西村丹治郎君

吉植庄一郎君

地方產業資金ニ關スル建議案

提出者 木村平右衛門君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

水產講習所移管問題及水產政策ニ關スル質問主意書

提出者 成田榮信君

產業及貿易ニ關スル質問主意書

提出者 小橋藻三衛君

一、大隈內閣總理大臣ヨリ左ノ通り發令相成タル旨ノ通牒ヲ受領セリ

法制局參事官法學博士 松本 治

法制局參事官 馬場 鐵一

政府委員被仰付

爲替貯金局事務官 日吉 平吉

遞信省所管事務政府委員被仰付

一、貴族院ハ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案

朝鮮森林特別會計法廢止法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案

會計検査院法中改正法律案

行政裁判法中改正法律案

議院法中改正法律案

一、常任委員ノ補闕選舉ニ左ノ通り當選セラレタリ

第五部 決算委員 谷 欽太郎君

（左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス）

一、去八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案

小林勝民君

菊池良一君

齋藤隆夫君

工藤吉次君

廣岡宇一郎君

小山松壽君

簡易生命保險法案

小河源一君

齋藤隆夫君

尾越辰雄君

原脩次郎君

濱田國松君

大島久滿次君

古屋慶隆君

森田小六郎君

室水彌次郎君

小泉又次郎君

齋藤圭次君

松田源治君

高木正年君

橫山金太郎君

淺野陽吉君

平山 午介君 黒須 龍太郎君 鈴置 倉次郎君

加藤 小太郎君 本田 恆之君 大橋 松二郎君

山田 珠一君 清水 隆徳君 藤井 善助君

前川 虎造君 板東 勘五郎君 吉植 庄一郎君

堀切 善兵衛君 高橋 光威君 田邊 熊一君

西谷 金藏君 成田 榮信君 横山 寅一郎君

西田 庄助君 渡邊 新太郎君 川崎 彰廉君

三木 與吉郎君 高野 金重君 川崎 克君

砂鑛法中改正法律案 谷口 武兵衛君 伊藤 恭之助君

杉山 東太郎君 川口 木七郎君 秋本 喜七君

半谷 清壽君 戸叶 薫雄君 平出 喜三郎君

鹽川 幸太君 織田 了君 田中 喜太郎君

實用新案法中改正法律案 須見 千次郎君 安部 熊之輔君

津末 良介君 友常 穀三郎君 森田 茂君

一委員異動 大正三年度豫備金支出ノ件外三件(承諾ヲ求ムル件)委員齋藤宇

一郎君辭任ニ付其補闕トシテ鈴置倉次郎君醫師法中改正法律案委員鈴木萬

次郎君辭任ニ付其補闕トシテ岡部政太郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案委員會

委員長 小山 松壽君 理事 尾越 辰雄君

簡易生命保險法案委員會 理事 菊池 良一君

委員長 小河 源一君 理事 横山 金太郎君

實用新案法中改正法律案委員會 理事 高野 金重君

委員長 田中 喜太郎君 理事 本田 恆之君

砂鑛法中改正法律案委員會 理事 三木 與吉郎君

委員長 平出 喜三郎君 理事 森田 茂君

○議長(島田三郎君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リヲ致スコトガアリマス、病氣ニ就

キ去ル八日ヨリ向フ二週間根津嘉一郎君、病氣ニ付今日ヨリ向八日間渡邊新太

郎君、請暇ノ申出デカリマス、許可シテ御異議ガアリマセヌカ

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイト認メマス、許可スルコトニ決シマス、第七部選

出豫算委員津原武君常任委員辭任ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイト認メテ許可致シマス、其部ノ諸君ハ補缺選舉

ヲ行ヒ御報告アラント望ミマス、小久保喜七君

又爲メ、更ニ出席ヲ議長ニ要求致シテ置キマシタガ、其後如何相成リマシタカ伺ヒマス

○議長(島田三郎君) 御請求ノ通り通告致シマシタ、次ノ質問日、即チ火曜日ニ

總理大臣出席致スト云フコトノ通知ヲ受ケマシタ

○小久保喜七君 了承致シマシタ

○議長(島田三郎君) 山根君

(片岡直溫君「唯今ヨリ豫算委員會ヲ開キマスカラ豫算委員會室ニ御參集ヲ願

ヒマス」ト呼ブ)

○議長(島田三郎君) 暫ラク……山根君……

○山根正次君 醫師法中改正法律案委員會開會ノ許可ヲ得タウゴザイマス

○議長(島田三郎君) 御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイト認メマス、山根君ノ要求ヲ許可致シマス、簡

易保險法案委員小河源一君カラ、午後二時カラ委員會ヲ開キタイト云フ、刻限ヲ附

ケテノ請求ガアリマス、其時刻ニ於テ席ヲ去ルコトニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(島田三郎君) 許可スルコトニ致シマス、日程第一、第二、御五、第七共ニ遞

信省ノ提出ニ係ル議案アリマス、説明ノ方モ同一ノ方デアリマス、ソレ故ニ之ヲ一括

シテ説明ヲ請フ方便利ト考ヘマス、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(島田三郎君) ソレデハ四案ヲ議題ト致シテ説明ヲ請ヒマス、箕浦遞信大臣

第一 郵便法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

郵便法中左ノ通改正ス

第二條中「及其ノ使用人」ヲ、「其ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者」ニ改

第十條ノ二 郵便ニ依ル取立金ハ拂渡其ノ他ノ處分ニ關シテハ之ヲ郵便爲

替金トシ郵便爲替法ヲ適用ス

第十一條中「又ハ郵便ニ依ル取立金」ヲ削ル

第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハ

サルモノハ郵便官署ニ於テ之ヲ保管ス

保管ノ郵便物ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ保管開始ノ日ヨリ三箇月

内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ

毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之

ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但シ賣却ニ要シタル費用ハ賣却代金ヲ以テ之

ニ充ツ

有價物及賣却代金ハ郵便物ノ保管開始ノ日ヨリ一箇年内ニ交付ヲ請求ス

ル者ナキトキハ國庫ニ歸屬ス

第十六條 郵便官署ハ郵便物引受ノ際郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反

シタルモノアリト認ムルトキハ差出人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人前項ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ郵便物ノ取扱ヲ拒絕ス

議員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

委員辭任ノ件 議事進行ニ關スル件 郵便法中改正法律案 第一讀會 四九五

官報號外 大正五年二月十一日 衆議院議事速記録第二十三號 議員ノ請暇

第十六條ノ二 郵便官署ハ其ノ取扱中ニ係ル郵便物ニシテ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シタルモノアリト認ムルトキハ差出人又ハ受取人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人若ハ受取人前項ノ開示ヲ拒ミタルトキ又ハ差出人若ハ受取人ニ其ノ開示ヲ求ムルコト能ハサルトキハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ其ノ郵便物ヲ開拔スルコトヲ得

第二十條中書狀ヲ信書ニ改ム

第二十五條ノ末尾ニ「受取人不明其ノ事由ニ因リ之ヲ差出人ニ還付スル場合亦同シ」ヲ加フ

第二十八條 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話、無線電信、無線電話、年金恩給支給、國庫金受拂又ハ收入印紙賣捌ノ事務ニ關スル郵便物ハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第三十二條中「又ハ郵便ニ係ル取立金ヲ削ル

第三十六條中「損害」ヲ「郵便官署ノ賠償スヘキ損害」ニ改ム

第三十八條中「二箇年」ヲ「一箇年」ニ改ム

第四十條中「六箇月」ヲ「三箇月」ニ改ム

第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役及千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十二條 何人ト雖第三條ノ場合ニ於テ郵便物ノ運送ヲ拒ミ又ハ其ノ運送ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條中「科料」ヲ「二十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條 削除

第四十六條中「五十圓以下ノ罰金」ヲ「五百圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十七條 不法ニ郵便ニ關スル料金を免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府若ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ偽造若ハ變造シ又ハ其ノ使用ノ痕跡ヲ除去シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

偽造、變造シ若ハ使用ノ痕跡ヲ除去シタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シ、人ニ交付シ若ハ其ノ交付ヲ受ケタル者ハ前項ニ同シ

第四十九條 削除

第五十條 削除

第五十一條 削除

第五十二條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開拔、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ刑ニ處ス

第五十三條 郵便事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ爲サス又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 郵便專用ノ物件又ハ現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ニ對シ損傷其ノ他郵便ノ障礙ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 第四十一條、第四十四條、第四十七條、第四十八條、第五十二條及第五十四條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十八條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ用ニ供シタル物ハ之ヲ沒收ス

第五十五條ノ二 第四十八條ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五十五條ノ三 偽造、變造シ又ハ使用ノ痕跡ヲ除去シタル帝國政府又ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ何人ニ屬スルヲ問ハス裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ差出シタル郵便物、郵便ニ依ル取立金又ハ本法施行前ニ生シタル損害賠償ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

刑法施行法第二十六條第十號ハ之ヲ削ル

第三 鐵道船舶郵便法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

鐵道船舶郵便法中改正法律案

第一條中「私設鐵道條例」ヲ「私設鐵道法又ハ輕便鐵道法」ニ改ム

第八條中「要求シタルトキハ」ノ下ニ「特ニ指定シタル場合ヲ除ク外」ヲ加フ

第十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

郵便車ノ使用料金ハ其ノ供給スル容積ニ應シ當該鐵道運送業者ノ定メタル最低等級旅客一哩運賃ノ左ノ割合ニ依ル

三百立方呎迄 一哩毎ニ 十割以內

五百立方呎迄 一哩毎ニ 二十割以內

(四)

七百立方呎迄 一哩毎ニ 三十割以内
 一千立方呎迄 一哩毎ニ 五十割以内
 一千立方呎ヲ超過シタルトキハ全容積ニ對シ百立方呎迄ニ付一哩毎ニ六割以内

同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

郵便車ニ依ラスシテ郵便物ヲ運送セシムル場合ニ於ケル運送料金ハ當該鐵道運送業者カ其ノ運送方法ニ付定メタル普通貨物運賃ノ最低額ノ半額以內トス

第十四條中「五十圓以上五百圓以下ノ罰金」ヲ「千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十五條中「二十圓以上二百圓以下ノ罰金」ヲ「五百圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十六條中「十圓以上」ヲ削ル

第十七條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ガ其ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ過失ニ因リ亡失又ハ毀損シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條中「二十圓以下ノ罰金」ヲ「科料」ニ改ム

第十九條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者カ第十四條乃至第十八條ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ各本條ノ刑ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 輕便鐵道法第八條ハ之ヲ削ル

第五 電信法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

電信法中改正法律案

電信法中左ノ通改正ス

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ電信官署ニ於テ之ヲ保管ス其ノ保管開始ノ日ヨリ三十日內ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第二十二條中「電話及」ヲ「電話、無線電信、無線電話」ニ改ム

第二十七條 不法ニ電信、電話ヲ施設シ又ハ不法ニ施設シタル電信、電話ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條ノ二 主務官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ電信又ハ電話ノ撤去ヲ命シタル場合ニ於テ期間內ニ之ヲ撤去セサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

撤去ヲ命セラレタル私設ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者亦同シ

第二十八條 私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニ非スシテ之ヲ使用シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

私設ノ電信又ハ電話ニ依賴シ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條ノ二 第二十七條、第二十七條ノ二第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十九條 第三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信、電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ鐵道用地、停車場建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ停車場建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條中「科料」ヲ「三十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不法ニ電信、電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條中「虛偽ノ電報」ヲ「電信又ハ電話ニ依リ虛偽ノ通信」ニ「一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ「輕懲役」ヲ「七年以下ノ懲役」ニ改メ同條第三項ヲ削ル

第三十四條 削除

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開拔毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信若ハ電話ニ依リ通信ヲ障礙シ又ハ之ヲ障礙スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條中「二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第三十九條中「科料」ヲ「十圓以下ノ科料」ニ改ム

第四十條中「五圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「千圓以下ノ罰金」ニ「所爲」ヲ「行爲」ニ改ム

第四十一條 第二十七條、第二十七條ノ二第二項、第二十八條、第三十一條乃至第三十三條、第三十五條、第三十七條、第三十八條及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十二條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ差出シタル電報ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七 海底電信保護萬國聯合條約罰則改正法律案 第一讀會

(政府提出、貴族院送付)

海底電信保護萬國聯合條約罰則改正法律案

第一條 海底電信保護萬國聯合條約ニ依ル海底電信線ヲ損壞シテ通信ヲ

障礙シ又ハ障礙スヘキ危險ヲ生シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ海底電信線ヲ布設又ハ修繕スルニ付已ムコトヲ得サルニ出テタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條 自己ノ生命若ハ船舶ヲ保護スル爲メ又ハ海底電信線ヲ布設若ハ修繕スルニ付已ムコトヲ得シテ海底電信線ヲ損壞シタル者ハ直ニ無線電信ニ依リ電信官署又ハ帝國領事館ニ届出ツヘシ無線電信ニ依ルコトヲ得サルトキハ最初ノ著船シタル時ヨリ二十四時間内ニ其ノ地ノ電信官署又ハ帝國領事館ニ届出ツヘシ

第三條 海底電信保護萬國聯合條約第五條第一項乃至第三項又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 海底電信保護萬國聯合條約第十條第二項ノ場合ニ於テ公書ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

暴行又ハ脅迫ヲ以テ前項ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(遞信大臣、實浦勝人君登壇)

○遞信大臣(實浦勝人君) 此四ツノ法律案ハ、皆通信事業ニ關スルモノデアリマス。カ一括シテ説明ラ致シマス、此中郵便法中改正法律案、鐵道船舶郵便法中改正法律案、電信法中改正法律案、此三案ハ(聽ヘマセムト呼フ者アリ)明治二十三年ノ制定ニ係ルモノデアリマシテ、最早十五年有餘ヲ經過致シテ居リマス、其間ニ郵便電信ノ業務ハ非常ニ増進ラ致シマシタ、就キマシテハ是等ノ法律ニ適當ナル改正ヲ加ヘテ、通信ノ業務ヲ圓滑ニスルコトノ必要ヲ生ジタデアリマス、其中ノ郵便法中改正法律案、改正ノ要點ハ、郵便取立金及不能還付郵便物等ノ取扱ヲ簡約ニ致シテ事務ノ簡捷ヲ圖ルト云フ、ソレカラ郵便物中犯則ト認ムルモノガアル、ソレヲ開イテ見ルト云フコトヲ受取人ニ對シテモ命ズルコトノ出來ルヤウニ致シタイト云フノデス、ソレカラ郵便物手類ノ偽造變造、又ハ一度用井タル郵便物手類ヲ其使用シタル痕跡ヲ除去シテ之ヲ再ビ用井ヤウト企アル者ガアル、ソレニ對シテ取締ヲ嚴重ニシテ、之ヲ未然ニ防遏スルノ方法ヲ設ケタイト云フ、其他新刑法等ニ對シマシテ權衡ヲ保ツタメニ刑罰規定ヲ變更スル必要ヲ生ジタ、ソレカラ鐵道船舶郵便法中改正ノ主ナル點ハ、近時輕便鐵道が段々開ケテ參リマシタ、就キマシテハ之ヲ利用シテ郵便物ヲ搭載シ運搬スルコトノ必要ヲ生ジマシタガ、肝腎ノ料金ノ點ニ至ッテ唯今ノハ甚ダ不十分デアリマスカラ、之ニ相當ナル改正ヲ加ヘル、竝ニ是モヤハリ刑罰規定ナドニ付テ改正ヲ施スノ必要ヲ生ジタ、ソレカラ電信法中ノ改正案ハ、是ハ事務簡捷ヲ圖ルタメニ電信ノ保管期間ヲ短縮致シマシタリ、或ハ事務用ノタメニ無料ノ電信ヲ使フト云フ範圍ヲ擴ゲル、其他船舶法竝ニ無線電信

法等刑罰規定ノ變更ノタメニ、又ハ海底電信線ノ保護ヲ十分ニスルタメニ改正ノ必要ヲ生ズル、ソレカラ海底電信保護萬國聯合條約罰則改正、是ハ明治三十五年ノ制定ニ係ルモノデアリマシテ、ソレ故ニ是モ時勢ノ推移ニ隨ッテ段々變更改正ヲ加ヘナケレバナラヌ簡條が出來テ參リマシタト、ヤハリ是モ刑罰規定ナドニ改正ヲ加ヘナケレバナラヌ簡條が出來テ參リマシタデアリマス、是等ノ四法案ハ皆何レモ重要ナ改正案デアリマスカラ、御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 別ニ質疑ガナイト認メテ、一括シテ議題ト致シテ議案ノ審查委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○福田又一君 唯今遞信大臣ノ説明セラレタル所ノ四案ヲ併セマシテ、議長指名十八名ノ委員ニ付託シ審査セラレンコトヲ求メマス

(「異議ナシ」呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 福田君ノ說ニ御異議ガナイト認メテ、議長指名十八名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマス、日程第九、同第十、是ハ同一委員ニ付託シ日程ノ關聯議案デアリマスカラ、一括シテ議題ニ致シタイト思ヒマス、御異議アリマセヌカ

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイト認メテ銀行條例中改正法律案ト貯蓄銀行條例中改正法律案ト第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長大西五一郎君

第九 銀行條例中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長大西五一郎君登壇)

(拍手起ル)

○大西五一郎君 銀行條例中改正法律案及貯蓄銀行條例中改正法律案ノ委員會ノ經過ト其結果トヲ御報告ラ致シマス、本案ニ付キマシテハ委員會中ノ高木君ニ於キマシテ、都鄙ノ金融圓滑ノコトヲ開カレ、其方法等モ詳シク述べラレ、而シテ又此不正銀行取締ト云フコトニ付テ、其方法等モ深ク攻究サレマシテ發議ガアリマシタ、ソレカラ崎君カラハ又此大藏大臣が資本金額其他ノ事ニ付テ許否權ヲ持シテ居リマスノデ、ソレ等ノ内容資本ニ付テ標準ガアルカト云フコトヲ御問ニナリマシテ、是等ニ付テ十萬人以上ト其以下ト區別分致シマシテ、一方ハ五十萬圓ヲ極度トシ一方ハ百萬圓ヲ極度トスル、其以下ノモノハ許可セヌ方針デアルト云フコトヲ標準デアルト云フ答ガアリマシタ、ソレカラ又此事ニ付テハ餘リ小サナ處ニシテ五十萬圓ノ資本ヲ要スルト云フコトハ、今日ノ民度トシテハ適合シナイデアルト云フ御意見モ出マシタ、是ハ信用程度ニ關係スルモノデアルカラト云フデアリマシテ、所謂金高ノ多イ銀行デナケレバ信用ガナイト云フヤウナ政府ノ説明モアリマシタガ、又此一面ニハ餘リ大ナルヲ以テソレヲ信用スルニ足ラヌ、所謂北濱銀行云々ト云フが如キコトが出テ居リマシタデアリマス、ソレカラ井原君カラハ此資本ノ標準ニ付テ、宜シク今一應ノ勘考ヲサレタラ宜カラウ、是ハ適セナイデアラウト云フ質問モ出マシタ、ソレカラ關戶君カラ致シマシテ此出張店代理店ノ區分、此區分ニ付キマシテ範圍如何ト云フコトヲ質問モアリマシタ、而シテ又銀行中ノ兼營ヲ致スト云フコトニ付テハ如何ナルモノヲ兼營ト云フカ、假リニ言ッテ見ルト此ニ鐵山ヲ擔保物トシテ其鐵山ガ流レ込ム、所謂之ヲ銀行ガ引受ケテソレヲ更ニ銀行ニ於テ經營ヲ

セニヤナラヌト云フ已ムヲ得テイコトガアル時分ニハ、是等ノ兼營ヲ許スカ否ヤト云フヤウ
ナ御問モゴザイマシタ、ソレカラ齋藤君ヨリ致シマシテ、又都鄙ノ金融圓滿ト云フコトヲ
圖ルノ方法等ニ付テハ、倉庫ヲ取ル、此各銀行等ノ兼營ヲ許シテハ如何デアラウカト云
フコトノ詳シイ質問ガアリマシタ、而シテ川崎君ヨリハ、此今般ノ改正案ノ法文ノ形式ガ
宜シクナイデアラウ、何トカ能ク分ルヤウニシテラドウデアラウカト云フ質問モアリマシタ、
ソレカラ致シマシテ此重役ニ對シマスル所ノ罰則ガ出テ居リマシテ、此罰則ハ御手許ニア
ル議案ニアリマスル通り一千圓ニナッテ居リマスガ、是ハ懇談のデアリマシタガ一千圓ハ
餘リ廉キニ失スルヤウデアラカ、先ツ三千圓位ノ極度ト致シテ如何デアラウト云フヤウ
ナ注文モ出テ居リマシタデアリマス、而シテ關戶君ヨリハ、此財團法人又ハ法人ノ理
事ト云フモノハ、此役員ノ中即チ監査役ニ相當スベキモノデアラガ、ソレ等ノモノハ如何
ナルデアラウト云フヤウノ質問モ出マシテゴザイマス、ソレニ對シマシテ相當ナル政府委員
ハ答辯サレマシテゴザイマス、而シテ約マリス所ハ、兩案共原案ニ賛成致スト云フコ
トニ決定ヲ致シマシタ、尙本案ノ如キハ最も重要ナルモノトシテ、十八名ノ委員ガ出來
テ居リマシタデアリマスケレドモ、遺憾ナガラ他ノ委員ノ御兼攝ノ方ガ多キガ故デアリ
マシタカ、甚ダ不揃ヒデアリマシテ、漸クニシテ半數ト申スル規定ノ上ニアル如キノ數ヲ得
マスルコトニ餘程苦ミマシタデアリマス、是ハ定メシ委員諸氏ノ他ノ委員ト御兼攝ノ結
果デアリマセウケレドモ、委員長ハ甚ダ遺憾ニ存ジマシタ、是ハ餘計ナコトデアリマスガ
附加ヘテ申上ケテ置キマス、ドウカ此案ニ付キマシテ御贊成ヲ願ヒマス（拍手起ル）
○議長（島田三郎君） 唯今ノ委員長報告ノ兩案ニ付テ、第二讀會ヲ開クコトニ致
シタイト思ヒマスガ、御異議ハアリマセウカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（島田三郎君） 御異議ハナイト認メテ第二讀會ヲ開クコトニ決シマス
○福田又一君 直ニ第二讀會ヲ開キマシテ、兩案共第二讀會ヲ省略シテ委員長報
告ノ通り可決確定セラレムコトヲ望ミマス
〔贊成〕異議ナシト呼フ者アリ

銀行條例中改正法律案

貯蓄銀行條例中改正法律案

○議長（島田三郎君） 御異議ガナイト認メマシテ福田君ノ說ニ決シマス、是ニテ二案
トモ全部可決確定致シマス、日程第十一、商業會議所法中改正法律案ノ第一讀會
ノ續ヲ開キマス——委員長坂口仁一郎君

第十一 商業會議所法中改正法律案（政
府提出）

〔坂口仁一郎君登壇〕
〔拍手起ル〕

○坂口仁一郎君 諸君、委員會ノ經過ハ速記録ニ依ッテ御承知ヲ願フコト、致シマシ
テ、私ハ唯結果ダケヲ御報告申上ゲタイト思ヒマス、委員會ハ審查ノ未滿場一致ヲ以
テ原案ヲ可決致シマシタ、併シ原案ヲ可決致シマスルニ付キマシテハ、政友會ヲ代表セ
ラレマシテ堀切善兵衛君カラ——一デハゴザイマセヌ、三項ノ希望ヲ提出サレマシ
タ、ソレニハ國民黨ヲ代表サレテ渡邊昭君ノ贊成ガゴザイマシタ、其希望條件ハ筆記ニ
ナッテ居リマスカラ朗讀致シマス——一商業會議所ノ適法ナル活動ヲ將來必要ナリト認ム然
レトモ徒ラニ財源ヲ増大ニスルノミヲ以テ其目的ヲ達シ得ヘシト信セス却テ之ガ爲ニ費

第二讀會（確定議）

第二讀會（確定議）

第一讀會（續）（委員長報告）

商業會議所法中改正法律案

○議長（島田三郎君） 福田君ノ說ニ異議ナイモノト認メテ、委員長報告通り可決確
定致シマス、日程第十二、罹災救助基金法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——
提出者川井爲巳君ノ說明ヲ求メマス——川井爲巳君

第十二 罹災救助基金法中改正法律案（伊藤義平君
外十九名提出）

罹災救助基金法中改正法律案
第十七條第一號中「地方債證券」ノ下ニ「農工債券」ヲ加フ

〔川井爲巳君登壇〕
〔拍手起ル〕

○川井爲巳君 此案ハ罹災救助基金法中ニ改正ヲ求メル法律案デアリマス、此法
律ハ即チ明治三十二年法律第七十七號ニ改正ヲ致シテ、即チ農工債券ヲ此罹災救
助基金中ニ加ヘタイト云フ法律デアリマス、目下各府縣ニハ金高モ段々多クナリマス、
又農工銀行モ各地ニ於キマシテハ段々發達ヲ致シ、債券モ多ク發行ヲシ、信用モ隨ッテ

用ヲ濫出シテ不適法ナル行動ヲ助長スル怖ナシトセス故ニ政府ハ今後特ニ其指導監督
ヲ嚴ニセンコトヲ望ム、一賦課徵收ニ對シ農商務大臣之ヲ認可スル場合ニハ負擔ノ均
衡ヲ失ハサル様特ニ注意スヘシ、一本法改正ノ精神ハ之ヲ農會法ニモ及サシコトヲ望
ム、斯ウ云フノデゴザイマス、之ニ付キマシテハ公友俱樂部中正會同志會ノ諸君ハ議案
ノ一項ニ二項ニハ異議ハナイ、第三項即チ本法改正ノ精神ヲ農會法ニモ及ボシタイト云
フコトニ付キマシテハ、必ズシモ反對デハナイ、併シ農會法ト商業會議所法ト云フモノハ自カ
ラ別箇ノモノデアアル、性質ヲ異ニシテ居ルモノデアアル、ソレ故ニ商業會議所法ノ改正ヲ讀
スルニ當リテ、農會法ニメ言及ラシテ希望條件ヲ提出スルガ如キコトハ其當ヲ得ナイ、ソレ
故ニ二ツ引離シテ讀スルヤウニシタイト云フ御說ガ出マシタ、然ルニ堀切君等ノ御意見
デハ、委員會ノ決議ヲ要求スルノデハナイ、唯斯ノ如キ意思ヲ以テ原案ヲ可決シタト云
フ、其意思ヲ表明シタイダケノコトデアラカ、本會ノ議場ニ於テ報告シテ貰ヒタイ、斯ウ
云フ御希望デアアル、衆議院規則ノ第二百五條ニハ「委員ノ審查ノ議院ノ付託シタル事
件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス」斯ウ云フ規定モアル、萬一之ヲ決議ト致スコトデアリマスレバ、
或ハ此二十五條ニ牴觸スル虞カナイトモ申サレナイケレドモ、堀切君等ノ御意見ハサウ
デハナイ、決議ヲ要求ハシナイ、唯一部ノ意思ヲ表明スルタメニ議場ニ報告スル、斯ウ云
フダケノコトデアリマスカラ、或ハ異例カモ知レマセヌ、異例ト致シマシテモ法規ニ觸レル虞
ハナイト信ジマス、政國兩黨ノ意思ヲ尊重致シマシテ、特ニ此事ヲ御報告申上ケテ置
キマス、本案ハ既ニ前ニ申上ケマシタ如ク滿場一致テ委員會ヲ通過シテ居ル、願クハ本
會ニ於テモ滿場一致ヲ以テ通過アラムコトヲ希望致シマス（拍手起ル）
○議長（島田三郎君） 他ニ發議ハナイト認メマス、本案ニ付テ第二讀會ヲ開クニ御
異議ハアリマセウカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（島田三郎君） 御異議ガナイト認メテ第二讀會ヲ開クコトニ決シマス
○福田又一君 直ニ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告通り可決確定
セラレムコトヲ望ミマス
〔贊成〕ト呼フ者アリ

第二讀會（確定議）

第一讀會

段々増加致シマスルニ付キマシテハ、是非此案ヲ加ヘルト云フコトノ必要ヲ起シタラウト云フ考デゴザイマシテ、即チ衆議院中ニモ七十八ノ提出者ノゴザイマスル譯デゴザイマスル、此案ハ速ニ諸君ノ御賛成ヲ得マシテ法律ニナラムコトヲ希望致シマス

〔贊成〕ト呼ビ拍手起ル

○福田又一君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託シ審査セラレムコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼ビ拍手起ル

○議長(島田三郎君) 福田君ノ說ニ御異議ガナイト認メテ、議長指名九名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマシタ 日程第十三、第十四、第十五、此三案ハ何レモ臺灣ニ關スル議案デアリマス、一括シテ議題ト致シタイト思ヒマスガ御異議ガゴザイマセスカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(島田三郎君) 一括シテ議題ト致シマスケレドモ、此事ニ付テハ場合ニ依リマシテハ別々ニ決ヲ採ルコトニ致シマス、ソレハ場合ニ依リマス、高野金重君ノ說明ヲ求メマス

第十三 裁判所構成法及辯護士法ヲ臺灣ニ施行スルノ法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第一條 裁判所構成法及辯護士法ヲ臺灣ニ施行スルノ法律案

第二條 裁判所構成法及辯護士法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

第三條 裁判所臺中ニ臺中地方裁判所臺中區裁判所臺南ニ臺南地方裁判所臺南區裁判所ヲ置ク

第四條 裁判所管轄區域表(中)函館控訴院欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

臺 灣	控訴院		地方裁判所		管 轄 區 域
	臺 北	臺 南	臺 北	臺 南	
臺 北	臺 北	臺 南	臺 北	臺 南	臺 北 廳 桃園廳 新竹廳
臺 中	臺 中	臺 南	臺 中	臺 南	臺 中 廳 臺 東 廳 花蓮港廳
臺 南	臺 南	臺 南	臺 南	臺 南	臺 南 廳 嘉義廳 臺南廳 阿緬廳 澎湖廳

第五條 本法施行前臺灣總督府法院ニ於テ受理シタル訴訟事件及非訟事件ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス

第六條 本法施行前臺灣總督府法院ニ於テ爲シタル裁判ハ相當ノ裁判所之ヲ爲シタルモノト看做シ既ニ確定シタルモノハ確定裁判ト看做ス

第七條 本法施行ノ際在職ノ臺灣總督府法院書記ハ裁判所構成法第八十九條ノ要件ニ拘ラス裁判所書記ニ任セラルコトヲ得

第八條 臺灣ニ於ケル執達吏ノ職務ハ當分ノ內區裁判所書記ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第九條 本法施行ノ際臺灣地方法院所屬辯護士タル者ハ辯護士法第二條第二號ノ條件ニ拘ラス辯護士タルコトヲ得

第十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 行政裁判及訴願ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行

第十二條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第一條 行政裁判及訴願ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行

第二條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第三條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第四條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第五條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第六條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第七條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第八條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第九條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十一條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十二條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十三條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十四條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十五條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十六條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十七條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十八條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第十九條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十一條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十二條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十三條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十四條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十五條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十六條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十七條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十八條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第二十九條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第三十條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第三十一條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

第三十二條 行政裁判及訴願ニ關スル法律案(廣岡宇一郎君外十名提出) 第一讀會

辯護士ノ職務ニ關シマスル此二ツノ法律ノ如キハ、今日臺灣ニ行ハレテ居ルモノモ、内地ノ法律ト大シタ相違ハナイノデアリマスルカラシテ、之ヲ行フコトハ少シモ不都合デハナカラウト思フ、日本辯護士協會ニ於キマシテハ數年前ニ臺灣ニ參リマシテ其事情ヲモ調査シ、又奥田司法大臣ノ當時ニ於キマシテ當局ノ意見ヲモ聽キマシテ、此二ツノ法律ヲ臺灣ニ施行シテ裁判權ノ一即チ司法權ノ統一ヲ圖ルコトノ必要ヲ認メマシテ、三十五議會ニ於テモ既ニ此案ハ提出サレタノデアリマス、唯衆議院解散ニナリマシタガタメニ、院議ヲ經ルニハ至リマセシメテケレドモ、殆ド政府モ同意セラレテ此案ヲ提出シタノデアリマス、御承知ノ通りニ臺灣ノ事情ハ臺灣新附ノ當時ヨリハ頗ル進歩シテ居ルモノガアルノデアリマス、ソレ故ニ其進歩シタル程度ニ於テ、總テノ事ニ於テ日本内地ノ法律ヲ適用スルコトハ出來ヌケレドモ、セメテ此裁判所構成法及辯護士法位ハ適用シテ、司法權ノ統一ヲ圖リタイト云フノガ本案提出ノ理由デアリマス、ドウゾ御審議ノ上御賛成アラムコトヲ望ミマス、ソレカラ其次ノ第十四ノ行政裁判及訴訟ニ關スル法律ヲ臺灣ニ施行スルノ法律案、此提出ノ理由モ、理由ノ大體ハ初メ申シマシタ所ト違ハヌノデアリマス、御承知ノ通りニ日本内地ニ於キマシテハ、日本内地ノ行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ付キマシテハ、之ヲ行政裁判所ニ訴ヘ若クハ主務大臣ニ訴願ラシテ、其違法處分ヲ救済スルコトコノ方法ガ設ケラレテ居リマスルノニ、臺灣ノ行政官廳ノ違法處分デアリマス、如何ニ違法デアッテモ其救済ヲ訴ヘル途ガ無イト云フコトハ、甚ダ權衡ヲ得ヌノデアリマス、此理由ニ於テ行政裁判及訴訟ニ關スル法律ヲ臺灣ニ行ヒタイト云フノデアリマス、此前案ト殆ド同一ナル、此點ニ付テ今迄救済ノ方法ガ少シモ設ケラレテ居ラスノデアリマス、ソレカラ十五ノ明治三十九年法律第三十一號中改正法律案、是ハヤカマシキハ三問題デアリマス、六二問題ニ付キマシテハ政府案モ出テ居リマスルガ、吾ノ見ル所ニ依ッテハ、臺灣モ既ニ占領後日本ノ領土トナッテ以來二十年ニモナッテ、幾ラカ進歩シテ居ルノデアラカシテ、六三問題ノ如キ全ク委任立法ニセズシテ、臺灣ニ特別ナル事情ノアルモノニ限ッテハ、此委任立法ヲ許シ、而シテ其他ノモノニ付キマシテハヤハリ日本ノ法律ヲ行ヒタイ、斯ウ云フ趣意デアリマス、ドウカ十分御審議ノ上此案ノ成立シマスヤウニ、我司法權ノタメニ希望スル次第デアリマス(拍手起ル)

○福田又一君 日程十二、十四ヲ併セテ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレ、第十五ノ日程ニ於キマシテハ、前ニ政府ノ提出セラレタルコトコノ明治三十九年法律第三十一號中改正法律案ト同一ノ委員ニ付託セラレムコトヲ望ミマス

(贊成々々) (聲起ル)

○議長(島田三郎君) 福田又一君ノ議ニ異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ) (呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 異議ガゴザイマセヌト認メテ福田又一君ノ說ノ通りニ決シマス 日程第十六、齒科醫師法中改正法律案第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長綾部惣兵衛君

第十六 齒科醫師法中改正法律案(綾部惣兵衛君外七名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

(綾部惣兵衛君登壇) (拍手起ル)

○綾部惣兵衛君 齒科醫師法中改正法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、當委員會ハ去月三十一日ヲ以テ第一回ヲ開キマシテ、委員長理事ノ互選

ヲ致シマシテ、引續イテ提案者ノ一人タル根本君ヨリ提案ノ理由ヲ詳細ニ御説明ニ相成リマシテ、尙續イテ委員會ヲ開キマシタルコト二回、内務省ノ政府委員及大藏省ノ政府委員、兩省ヨリ政府委員ノ出席ヲ請ヒマシテ、委員諸君ト政府委員ト間ニ質問應答ヲ重ネタノデアリマス、屢々委員ト政府委員ト間ニ質問應答ヲ致シマシテ、其結果遂ニ討論ニ入リマシタトキニ、津末君及根本君ヨリ原案賛成ノ御演說ガアリマシテ、其他ノ諸君ヨリモ質問の御意見モアッタノデアリマス、政府委員ニ於キマシテモ此案ニ絕對ニ反對ハシテ居ラナイノデアリマシテ、案ノ形ヲ直シタナラバ同意スルカノ意見ヲ政府委員ヨリ漏ラサレタノデアリマス、此ニ於キマシテ委員長ハ委員會ニ諮ッテ懇談會ヲ開キ、而シテ懇談會ヲ重ネマシタ結果、更ニ委員會ヲ開イタノデアリマス、其委員會ニ於テ津末君ヨリ一修正案ガ出タノデアリマス、其修正案ハ委員會ニ於テ全會一致ヲ以テ可決シ、又政府委員ニ於キマシテモ、内務省及文部省ノ委員兩方トモ之ニ同意ヲ表シタノデアリマス、其修正案ハ原案ノ第一條其儘ニシテ置キマシテ、第一條第一項中「齒科醫學學校ヲ齒科專門學校ニ改ム」ト云フハ原案ノ儘ニ致シマシテ、同條第二號「四、齒科試驗規則第二條中齒科治術學齒科技工學及實地試驗ニ合格シタルモノ、五、齒醫ニシテ齒科專門學校ニ修業スル帝國大學醫學科大學又ハ文部大臣ノ指定シタル齒科醫學專門學校ニ於テ二箇年間齒科專門學校ニ修業スルモノ以上ノ修業シタル者ヲ加フ」ト云フ所ヲ修正シタノデアリマス、醫師ニシテ齒科醫學中技工ニ屬スル行爲ヲナシタル者又ハ齒科專門學校ニ修業シタル者亦ハ前項ニ同シト云フ箇條デアリマスガ、之ヲ修正致シマシテ齒科專門學校ニ課程ヲ設ケル醫學專門學校以上ノ學校ニ於テ一年以上齒科醫學ヲ專攻シタル證明ヲ有セザル醫師ニシテ齒科醫學中技工ニ屬スル行爲ヲナシタル者又ハ齒科專門學校ニ修業シタル者亦ハ前項ニ同シト云フ箇條ニ修正案ガ出タノデアリマス、附則ノ方ニ於キマシテハ原案ハ「本法ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス」トアルノヲ修正案ノ方デハ「本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス」ト云フコトニ修正シタノデアリマス、尙「本法公布前一年以上齒科專門學校ニ修業シタル齒科醫學ヲナス醫師ニ對シテハ第十一條二項ノ規定ヲ適用セス」ト云フ條ニ修正案ガ出タノデアリマス、此本案ノ公布以前ニ齒科醫師ニ非サルモノニシテ、普通ノ醫師ニシテ齒科醫師ヲ標榜シ、若クハ開業シテ居ル者ニ對シテハ一年以上開業シテ居ル者ニ對シテ特ニ既得權ヲ認メタノデアリマス、此修正ガ津末君カラ出マシテ、滿場一致ヲ以テ可決ニナッタノデアリマス、故ニ本議會ニ於キマシテモ滿場一致ノ御賛成ヲ希望スル次第デアリマス、尙此場合ニ述ベテ置キマスコトハ、政府ニ一希望ガアルノデアリマス、此法案ガ——此修正案ガ本會及貴族院ニ於テ可決ニ相成リマシタ以上ハ、速ニ本法公布ノ手續ヲ運バレテ、而シテ實行セラレムコトヲ特ニ政府ニ希望スル次第デアリマス、其理由ハ唯今ノ附則ニアリマス如ク、本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行スルコト云フコトニ修正致シ、且ツ既得權ヲ認メテ、特ニ一年以上開業シテ居ル從來ノ醫師ニシテ、齒科醫學ヲ兼テ居ル者ノ既得權ヲ認メタリマスガ故ニ、此法案ガ通過致シマシタナラバ、政府ハ一日モ早く公布ノ手續ヲ運バレムコトヲ此機會ニ於テ希望致シテ置キマス(拍手)

○議長(島田三郎君) 別ニ御發議ハナイト認メテ、本案ニ付テ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス——第二讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ) (呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 御異議ハナイト認メテ第二讀會ヲ開クコトニ決シマス

○福田又一君 直三二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シ委員長報告通リ可決確定セラレムコトヲ望ミマス

(賛成々々「聲起ル」)

齒科醫師法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○議長(島田三郎君) 福田君ノ議ニ御異議ハナシト認メマス、本案ハ委員長報告ノ如ク可決確定致シマス。日程第十七、狩獵法中改正法律案第一讀會ノ續ヲ讀題ト致シマス。委員長辻寛君

第十七 狩獵法中改正法律案(伊東知也君提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

(辻寛君登壇)

○辻寛君 咽喉ヲ痛メテ居リマス簡單ニ申シマス、本案ハ現行狩獵免狀ノ有效期間十月十五日ヨリ翌年四月十五日トアリマス、東北北海道ハ雪ガ多イカラ十月十五日ヨリ四月三十日マデ、尙北海道ハ九月十五日ヨリ翌年四月三十日マデ、斯ウ云フ改正案アリマスガ、委員會ニ於キマシテハ是ハ鳥類保護ノ上ニ害ガアルト云フ議論ガ出マシテ、政府モ亦此意味ヲ以テ反對セラレマシタガ、政府ノ方ニハ本問題ニ關シテ各地カラ、懇談ノ結果委員會ハ政府ヲシテ次ノ議會マデニ調査ラシテ、相當ノ法案ヲ出サセルト云フ意味ノ希望條件ヲ附シマシテ、本案ハ否決致シマシタ

○議長(島田三郎君) 少數意見ノ報告ガアリマス

(伊東知也君登壇)

○伊東知也君 本案ニ對シマシテ少數者ヲ代表シテ意見ヲ述ベマス、本案ハ簡單ナル狩獵法ノ一部分ヲ改正スルコト云フコトデガイマスガ、其關係スル所ハ甚ダ重大デアツテ、立法ノ精神ニモ影響ヲ及ボス問題デアルト私ハ思フデアリマス、元來何事ニ拘ラズ一ツノ法律ヲ設ケマス場合ニハ、全體ノ國民ニ其利益ヲ成ルベク平均ニ均霑セシムルト云フ精神ニ則ラネバナラスデアアル、然ルニ此狩獵法案ノ如キモノハ、此ハ青森縣ノ端ヨリ南ハ沖繩ノ端ニ至ルマデ、同シ方法ヲ以テ之ヲ束縛シヤウトシテ居ル法律デアリマス、諸君、青森及東北一帶ノ地方ノ風土氣候、或ハ沖繩九州地方ノ風土氣候ハ、之ヲ同一視スルコトガ出來ルデアリマセウカ、從ツテ鳥類其他ノ發達發育或ハ發情期ノ如キモノモ、其間ニ多大ノ差ガアルト云フコトハ申スマデモナイコトデアリマス、申スマデモナイガ諸君ドウデス、「エスキモー」人種ノ春情發育期ト印度人ノ春情發育期ト、是ガ同等デアルト云ツタナラバ諸君ハ御笑ニナルデアラウ、動物ニ於テモ亦然リデ、決シテ人間ノミニ止マラヌノデ、氣候ノ寒冷ナル風土ノ異ナル地方ニ於テハ、皆ツレノ發情期ノ如キ差ガアルデアリマス、故ニ東北地方ニ於ケル鳥類ノ發情期ト九州ニ於ケル鳥類ノ發情期トハ、之ヲ同一視スルコトハ出來スデアリマス、然ルニ政府當局者ノ此改正案ニ對スル反對ノ理由ハ何處ニ在ルコト云フト、鳥類ノ發情期ハ東北ニ在ツテモ九州ニ在ツテモ同ジ様ニ、動物學者ノ就テ聽クト、ツレハ非常ニ違ツテ居ルト云フデアリマス、併ナガラ私共動物學者ハ同ジト云フサウデアリマス、此點ニ於テ私ト政府委員トノ間ニ於テ水掛論トナツタデアリマス、所ガマダ一ツノ理由ガアル、其理由トスル所ハドウデアアルコト云フト、東北地方ダケニ限ツテ十五日間ヲ延期スルト、全國ノ狩獵家或ハ鳥打ハ、皆其時ニナルト東北ハ出掛ケテ全部鳥ヲ捕ツテシマウテ、鳥ガ來年カラ一疋モ無クナルト

云フ議論アル、是ハ政府當局者ノ議論デアアルガ、實ニ驚人ヲタル議論デアアリマセウカ、是ガ政府當局者ノ所謂此改正案ニ對スル重ナル議論ノ根柢デアアル、成程狩獵家ハ贅澤ガ半分位アツテ、東北ノ方ダ十五日間狩獵期間ガ延ビタナラバ皆出掛ケテ行ツテ、東北ニ集ルテ汽車賃モ家賃モ構ハズ鳥ヲ捕ルカモ知レマセヌ、併ナガラ常識カラ考ヘテ斯ウ云フコトガ行ハレルカドウカ、ツレモ理窟ヲ付ケレバ付カヌコトハナイガ、然ラバ明治二十三年以前ニ遡リテ此狩獵期間ノ延長短縮ト云フコトハ、其地方長官ニ委任シタラドウデアアルカ、地方長官ガ之ヲ認メテ此地方ハ氣候寒冷デアラカラ十五日間位延ハシテモ宜シイ、此地方ハ暖イカラ延ハスコトガ出來ナイト云フヤウニ、地方長官ガ之ヲ伸縮スルコトガ出來ルヤウニマデ私ハ讓歩スルカラ、其取計ハ出來マイカト言ツタデアアル、サウスレバ其地方ニ限ツテ地方長官ガ之ヲ認メテ、主務大臣ノ許可ヲ得テ許スト云フコトノ法ノ精神ニ適タル立派ナル法律ナルデアリマス、所ガツレモイケナイト云フ、其理窟ハ甚ダ曖昧デアリマス、ドウ云フ譯デイケナイカト云フト、ツレハ三十二年マデ地方長官ニ委任シテ居ッタガ、地方ノ狩獵家其他ノ連中ガドウモ期限ガ十五日モ延ビテハ鳥ガ無クナツテ不足スルカラ、ドウ止メテ吳レト云ツテ歎願書ガ澤山出タカラ、其事ハ全國一級、取締ノ上ニ於テ統一スル爲メニ、此法律ヲ拵ヘタノデアルト政府ハ答ヘラレタ、所ガ焉知ラン私ガ此法案改正案ヲ出シ付テハ、私ノ地方及ビ東北一帶ノ狩獵家ト云フヨリモ、寧ろ鳥ヲ捕ツテ營業ニシテ居ル非常ナル多數ノ人カラ依頼ヲ受ケテ本案ヲ提出シタデアアル、一十八年カラ三十二年ノ間ニ鳥ガ少ナクナルカラ止メテ吳レト云フコトガアルカト云フト、ソナナ事ハ斷ジテ無イト云フ、所ガ政府委員ハアルカラ仕方ガナイ言ツテ頭張ツテ、殆ド水掛論ニ終ツタデアアル、譯シシク申上ゲルマデモナク、本案提出ノ際ニ申述ベマシタ通り、苟モ法ノ精神ニシテ氣候風土ノ違フ所ニハ相當ノ例外ヲ設ケルト云フコトハ、立法ノ精神ニ於テ當然執ルベキ事デアアル、東北地方ノ鳥ノ發達、鳥ノ發情期ガ、九州地方ニ較ベタナラバ十五日位後レト云フコトハ當然デアアルカラ、東北地方ダケハ除外例ヲ設ケテ、十五日間期間ヲ延長スルト云フコトハ、立法ノ精神ニ於テ當然執ルベキ事ト思ヒマス、然ルニ政府當局者ハ先刻來申シマシタ通り、私ガ有ルト言ヘバ無イト言ヒ、單ニ水掛論ニ依ツテ此委員會ハ終ツタデアリマス、サウシテ採決ノ結果タツタ一人ノ差、タツタ一票ノ差ニ依テ私共ハ破レタデアス、タツタ一票デス、是ダケノ議院ヲ代表スル議員ガ寄ツテタツタ相談シタ結果、私共ハタツタ一票ノ差デ破レタデアラカラ、此本會議ニ於テハ私共ノ趣旨ノ在ル所ヲ諸君ニ於テ御考下サイマシテ、少數意見ノ通過スルコトヲ、立法ノ精神ヨリ諸君ニ向ツテ嘆願スル次第デアリマス

○清釜太郎君 委員長ニ御尋致シマスガ、此案ヲ否決スル場合ニ、次ノ議會マデニ適當ノ改正案ヲ出サスト云フ條件ヲ付ケテ否決シタト云フコトヲ先刻承認デアリマスガ、次ノ議會マデニ改正スル要點ハ、單ニ此案ニ關スル事柄デアアルカ、ツレモ狩獵法全體ノコトデアアルカト云フコトヲ御尋シタイ、モウ一ツハ其希望ヲ政府ガ容レマシタカドウカ、與黨側ノ希望デアアルカラ多分御容レニナツタコト、思ヒマスガ、念ノ爲メ御尋致シマス

○辻寛君 政府トノ懇談ハ免ニ角狩獵法中ノ今回問題ニナツタ部分ニ對シテハ、何トカシテ調査ノ上改正サレタイ、斯ウ云フ希望條件ヲ付ケタデアリマス、必ズシモ政府ガ容レタ譯デハナイ、ツレカラ今一ツハ何デスカ

○清釜太郎君 改正ノ條項ハ希望條件ヲ付シタ——改正ノ條項ハ是ダケノコトデアアルカ、期限ダケノコトデアアルカ、狩獵法全體ノコトデアアルカ

○辻寛君 今答辯シタ期限ダケノコトデス

○清釜太郎君 政府ガ容レルカ容レヌカ分ラヌ……

(1115)

減シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ本法ニ依ル「ト云フ新
ラシキ項目ヲ設ケタイノデアリマス、此十八條ノ規定ハ是ハ北海道ノ屯田兵ニ關スル規
定デアリマスカラシテ、稍、他ノ恩給トハ性質ヲ異ニシテ居リマス、ソレデアラカラソレニ伴フ
所ノ事項ヲ明確ニスルタメニ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給金額ヲ給ス「トアル」本
法施行ノ日ヨリ本法規定ノ恩給金額ヲ給ス「ト云フノ削リマシテ、此施行期日ハ勅
令ヲ以テ定ムル以上之ヲ削リノハ當然デアルト考ヘマスカラシテ、此削リタル跡ニ「各人
ノ受ケ又ハ受クヘキ金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額五分ノ一ヲ本法施行ノ
日ヨリ毎年遞次増額併給シ本法規定ノ金額ニ達セシム」ト斯ウ修正ヲ願フタノデアリ
マス、次ノ條項モ同條ト同ジクヤハリ「本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス「トアル
ヲ削リ、其跡ニ「現ニ各人ノ受ケタル金額ニ該金額ト本法規定ノ金額トノ差額五分ノ一
ヲ本法施行ノ日ヨリ毎年遞次増額併給シ本法規定ノ金額ニ達セシム」ト斯ウ改メタイ
ノデアリマス從テ「前二項ニ依リ扶助料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ其遺族ニ
給スヘキ扶助料ノ金額ハ總テ本法ノ規定ニ依ル「トアルヲ削リ、前二項ノ規定ニ依リ扶助
料ヲ受クル者權利消滅シタル場合ニ於テ轉給ヲ受クヘキ者ニ給スヘキ扶助料ノ金額ニ
付テ前二項ノ規定ヲ準用ス」ト斯ウ致シマシテ次ギノ項ニ於テハ「第五項ノ規定ニ依
リ本法規定ノ恩給金額ヲ受クル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料金額ニ付テハ第五項ノ規
定ヲ準用ス」ト改メ、則チ原案ノ第四項トアル「四」ノ字ヲ削リ「規定」ノ二字ヲ加ヘ
後段「本法ノ規定ニ依ル「トアルヲ削リ、第一文字ヲ修正ニ付テ「理由ハ再ヒ申
上ゲマセ、此内容ノ修正ニ付テ一言申上ゲタイノデアリマス、明治四十四年四月一日
カラ施行サレマシタ所ノ軍人恩給法ハ、其前ニ恩給ヲ受クル所ノ者ニハ特典及バヌコト
ニナッテ居ルノデアリマス、ソコデ前ニ受クル者ト後ニ受クル者ト同ジク功勞ノアルニ拘ラズ、
金額ニ差等ヲ設クルノハ不都合デアルト云フ理由ノ下ニ、屢々本院ニ請願其他ノ方法
ヲ以テ是ガ統一公平ヲ保ツコトニ努メラレタノデアリマス、本案提出ノ理由モ亦是ト同
一デアリマスガ、私ハ此場合ニ於キマシテ「ツ」理由ガアルト信ズルノデアリマス、ソレハ
單ニ明治四十四年四月一日以前ノ恩給者ト以後ノ恩給者ト金額ノ相違、即チ不公
平ヲ公平ナラシムルト云フ所ノ趣旨ト、今「ツ」ハ恩給金額其物デハトモ今日ノ生活
狀態ヲ維持スルコトノ出來ナイト云フ「ツ」理由ニ基イテ居ルノデアルト信ジマス、第一
ノ理由タル單ニ不公平論、即チ前キノト違ッテ居ル、金額ガ少ナイカラト云フデケノ理由
ニ付キマシテハ強イテ公平ニセヨト申シマスナラバ、四十四年以後ノ金額ヲ引下ゲレバ公
平ヲ保ツコトニナルト云フ議論ガ出ルカモ知レマセヌ、サリガラ一旦既ニ恩給トシテ増
加ノ恩典ニ浴セサセタモノヲ、今更引下ゲト云フコトハ道理上許スコトデナイノデアリマ
ス、ソレデアリマスカラシテ同ジク恩給ノ増加ト云フコトハ必要デアリマス論旨ハ主ニ
公平ヲ缺クト云フノガ主ニナッテ居ルノデアリマス、之ニ付テ實例ヲ申上ゲマス「ト云フト、
例ヘテ見マス「ト云フト、陸軍大將ノ恩給ハ千八百圓カラ二千九百七十圓マデアリ
マス、ソレカラ四十四年ノ三月マデハ陸軍大將ノ恩給ハ千五百圓カラ二千六百餘圓マ
デアリマシタ、斯ノ如キ大將側ニ於キマシテハ多人ノ恩給金額ヲ賞ッテ居ルノデアラカラシテ、
此人等ハ今恩給ガ無ケレバ困ル、改正シナケレバ困ルト云フ理由ノ下ニ此改正ヲ迫ラレ
ルノデアラカラシテ、法ノ均一ヲ保ツト云フ上ニ於テ、此改正ヲ望ムレモノデアラウト信ズ
ルノデアリマス、一千六百圓カラノ金デアルト云フト、普通文官ノ高等官三等ノ人ノ日々
勤メテ居ル所ノ俸給ニ該當スルノデアル、此恩給ハ御承知ノ通り遊シテ居ッテ貰フノデ
アラカラシテ誠ニ好都合ニナッテ居ル、此上ニマデ増加シナケレバナラヌト云フコトハ、其人

ノ地位身分ヲ維持スル意味ヨリハ法ノ公平ヲ保ツト云フ意味ニ於テ成立タモノデアラ
ウト思フノデアル、第二ハ「此レトハ違ヒ即チ兵卒デアル、是ハ氣ノ毒デアル、兵卒ハ
ドレ程デアルト申シマスルニ、恩給増加ガ入リマシテ漸ク一年ニ七十圓デアル、御承知ノ
通りニ恩給増加ハ負傷時デナケレバ貰フコトハ出來ナイノデアル、而モ其負傷ハ簡易
ノ負傷デナクシテ、手ヲ一本無クスルトカ、足ヲ一本無クスルトカ、免モ角モ普通ノ仕事ニ
従事スルコトノ出來ナイ廢疾者デナケレバ受クルコトハ出來ナイノデアル、斯ノ如キ者ニ
向ッテ僅ニ年額ハ十圓ヤ七十圓ノ些々タル金デドウシテ生活ヲ維持シテ行カレデアリ
マセウカ、私ハ是等兵卒並ニ下士以下ノ人ニ對シテハ、多大ノ同情ヲ有ッテ居ルノデアリ
マス、私ノ眞ニ増給ヲ要スルノハ此點デアルノデアル、此點ニ付キマシテハ私トシテハ委員
長ノ報告以上ニマデウシテ殖ヤシテヤリタイ考デアル、先日林毅陸君ハ恩給法以外ニ於
テ相當ナル法律ヲ持ヘテ、一万五六千餘アル廢兵ヲ救済スル「ト云フ所ノ法案ヲ提出サ
レタノデアリマス、私モ此案ハ頗ル良イ案デアラウト信ジテ居ル、次第デアル、以上ノ次第
デ概要申シマス「ト云フト、一ツノ理由ニ基イテ恩給ノ増加ヲ請求スルコトニナッテ居
ルノデアル、所ガ委員會ノ經過ハ御承知ノ通りニ政府ハ今日財源ガ無イト云フノデアリマ
ス、之ヲ實行スルニハソレナラバドレデケノ金ガ要ルト斯ウ申シマス「ト云フト、二百二十萬ノ金
ガ要ルサウデアリマス「今日ノ政府ノ財政狀態デドウシテモサウ云フ多額ナ金ガ出來ナイト
云フコトデアルノデアリマス、ソレナラバ見ス「ト云フ政府ノ反對ヲ受ケ、之ヲ貴族院「送ッテ
或ハ萬ニ通過スルカモ知レマセヌケレドモ、財源ノ無イト云フコトヲ明示シテ政府ガ反對
スル以上ハ、私ハ十中ノ九マデハ貴族院ニ於テ通過ハセヌト思フノデアリマス、萬一ソレ
デアリマシタナラバ實ニ此下士卒、遺族ガ廢兵ヤニ對シテ氣ノ毒デアル、其所ニ於キマシ
テ本員ハ此緩和策ヲ圖ル爲メニ此修正案ヲ提出致シタノデアリマス、此修正案ハ三百
萬圓ヲ一年ニ六十萬圓宛殖ヤシテ行クノデアル、サウ致シマス「ト云フト、五箇年目ニハ
三百萬圓ニ達スルノデアリマス、金額ハ少ナイガ政府ノ意見ヲ聞キマス「ト云フト、年々六
十萬圓程ナラバ何トカ都合シテサウシテ是等憐れムベキ所ノ者ニ對シテ此法ヲ實行スル
ト云フコトデアルノデアリマス、私ハ此點ニ付キマシテ政府ノ意見ヲ聞ク「ト云フト、政府ハ
デアリマスカラシテ、原案ノ如ク通過スレバ宜イガ、十中九マデモ通過セヌ所ノ案ヲ提
テ闢フヨリモ、寧ロ政府ノ同意シテ正確ナリト信ズル實行ノ出來得ベキ案ニ依ッテ、サウ
シテ幾分ナリトモ彼等下級軍人ニ對シテ安心ヲ與ヘタ方ガ、私ハ議員ノ職責デアラウト
斯ウ信ズルノデアリマス、故ニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、恐ラク政府當局者モ本
會ニ於テ本員ノ修正シマシタ意思ニ基イテノ御聲明ガアルコト、信ズルノデアリマス（拍
手スル者アリ）

○議長（島田三郎君） 柏原文太郎君

○村松龜一郎君 チョット私ハ提案者ニ質問致シタイ

○議長（島田三郎君） 柏原君ニ許マシタカラ次ニ

○柏原文太郎君 簡單デアリマス、自席カラ述ベマス、此場合ニ於テ政府並ニ修正案
提出者ニ質問致シタイノデアリマス

○議長（島田三郎君） 登壇セラレタ方ガ分明デアリマス、登壇ヲ求メマス

○議長（島田三郎君） 登壇

○柏原文太郎君 此場合ニ於テ政府並ニ修正案ノ提出者ニ質問ヲ致シタイト云フ
趣意ハ、全體本案ノ改正セザルベカラザル理由ハ、政府モ既ニ承知シ、何時ノ委員會

若クハ前同ノ議會ニ於テモ之ヲ承認シテ居ルノヲ、唯之ヲ實行スル財源ニ付テノコトデアリマス、此度ノ委員會ニ於テモ之ヲ實行スル所ノ財源が無イト云フ理由ヲ以テ、政府ハ不幸ニモ此修正案ニ反對ヲ致シタリマス、ソレ故ニ私共が唯今野村君ノ述べラレタ通り、成ベク本案ヲ實行致シタイ、實行致シタイト云フノデアリマスガ、政府ハ財源ガナシ、斯ウ云フコトデアリマスニ依ッテ此ニ勅令ニ之ヲ改メルト云フ此施行期日、其施行期日ト云フニ付テ政府ノ意思ヲ確メタイノデアル、施行期日ヲ私共並ニ委員會ハ決定ヲ致シテ居リマス、然ル所ガ委員會ハ決定後ニ政府筋カラ多分御話ガアッテ、施行方法ニ付テノ御相談ガアッテ、此委員會ハ修正案ニ又此修正案ガ出來タモノト思ヒマス、此事ハ此修正案ノ内容等ニ付キマシテハ、私共ハ成程文字ノ統一ヲ計ルカ何トカ云フコトハ、政府トモ御打合せノ上デアルノデ體裁ガ宜シイト思ヒマス、是ハ別ニ異議ハゴザイマセヌガ、唯施行期日ト云フコトハドウモ政府ガ前ノ案ニ付テハ同意ガ出來ナイ、斯ウ云フコトヲ申シテ居リマス、財源ガ無イ、斯ウ云フコトヲ申シテ居リマスガ、此度モ政府ハ來年度カラ此修正案ノ通り實行スルコト云フコトヲ、茲ニ修正案ノ通りニ規定シテモイカヌノデアリマスガ、又勅令ニ讓ルトシタ所デハ年度カラ之ヲ實行シ得ルト云フ御見込デアリマスガ、ソレカラ實行スルコト云フコトノ意思ヲ以テ勅令ヲ決定メルト云フ意ヲ此處デアリマス、コトガ出來マスガ、斯ウ云フコトヲ政府ハ御確メテ致シタイ、此案ハ理由等ハ申スマデモナク疾ク二分テ居ルコトデアリマス、唯財源ガ無イノデアリマス、施行期日ガ定マラズシテ、何時カラ實行スルコト云フコトガ分ラナク、ヤハリ是モ書イタ餅ノ如ク、ドウモ食フコトハ出來ナイ、何時食ヘルカ知レヌト云フコトデハ、此恩澤ニ浴スル者ガ誠ニ安心ガ出來ナイ話、愈々政府ガソレマデニ御奮發ガアッタナラバ、其恩澤ニ浴スル者ノ意ヲ安ズルガケノ聲明ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレニ依テ私共ハ修正案ニ對シテ贊否ヲ決シタイト思ヒマス、ソレカラ提出者ニモ、其事ハ提出者ノ大正六年度カラ行フト云フ政府ノ勅令ヲ、サウ云フ風ニ定メルト云フヤウ御話ガアッテ是ハシタノデアラウト思フガ、左様承知シテ宜シイカ、併セテ兩方カラ聲明ヲ得タイト思ヒマス

○議長(島田三郎君) 高木正年君

○高木正年君 簡單デスカラ自席デ申シマス、唯今野村君六君ノ提出セラレマシタ修正案ハ、此案ノ實行ヲ容易ナラシムル點ニ於テハ、金額支給額ノ二百萬圓ヲ五箇年ニ割テ、一年毎ニ遞増シテ行クト云フ案ノ方ガ宜イヤウニ考ヘル、第二ハ廢兵ニ關スル規定デ、是モ委員長ガ委員會ノ報告トシテ申サレタヨリハ此法文ノ方ガ一層明確ニナツタ、此二點ノ上ニ於テ軍人恩給法ノ改正ノ前途ニ付テハ、野村君ノ案ノ方ガ宜シイヤウニ考ヘルノデアリマス、唯要ハ今柏原君ガ言ハレタ如ク、施行期日ノ點ニアルノデアリマス、元來本案ハ恩給均等者ノ上カラ見ルト、極メテ短命ナ性質ノ案デアルト云フコトガ言ヘルノデアル、ト云フノハ年々歳々舊恩給者ハ死亡シテ減ッテ行クカラ、一年遞レ、バソレケケ新恩給ノ恩典ニ浴セザル人ガ殖エテ行ク、此點ニ於テモ早ク實行シタイ、サリナガラ財源ノ状態ニ於テ之ヲ急速ニ行フトガ出來ザル爲ニ、政府ガ反對シテ何時マデモ實行ガ出來ヌト云フヨリモ、漸進主義デハアルケレドモ、今日ヨリ五年ノ後ニ全部給スコトニナル案ヲ通過シタ方ガ將來ノ爲ニハ宜シイ、サリナガラ唯短命ナ性質ヲ持タル所ノ舊恩給法ニ依ッテ恩給ヲ受クル者ハ極メテ急速ニシテ欲シイノデアリマスガ、併シ五年度ニハ間ニ合ハヌ、私ハ丁度柏原君ノ言フノガ如ク施行期日ヲ六年度ニ規定シタイノデア

リマスガ、併シ此案ヲ政府ト交渉シタ當時ニ於テ、六年度規定シテハ修正案ニハ同意ガ出來ヌト云フコトデアッテ交渉ヲ繰返サレタガ、併シ今日ノ場合ニ於テ政府ハ誠意アル聲明ヲセラレテ、努メテ最善ノ方法ニ依ッテ大正六年度ヨリ實行スル考デアル、實行方法ヲ計ル考デアルト云フ斯様ナ意味ノ聲明アレバ、私共ハ甘シテ此案ニ贊成シテ置キタイと思フ、趣意ハ柏原君ノ言ハレタ餘リ變ラヌノデアリマスガ、唯此法案ノ性質ガ一年モ延バスコトハ頗ル苦痛デアルト云フ意味ヲ附加ヘテアルノデゴザイマス、大藏大臣ニ於テモ此趣意ヲ諒セラレテ、満足ナル答辯ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○議長(島田三郎君) 武富大藏大臣

(大藏大臣武富時敏君登壇)

○大藏大臣(武富時敏君) 柏原君ト高木君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス前ニ、一言申上ゲテ置キタイ事ガゴザイマス、此恩給法ノ改正ハ頗ル理由アルコト、政府ハ認メテ居リマス、併シ委員會ニ於テ屢々政府ハ財政上之ニ反對セザルヲ得ヌト云フコトヲ、政府委員ヲ以テ表明ヲ致シテ置キマス、併ナガラ其改正其モノハ頗ル理由アルコト、認メテ居リマス、野村君ノ提出ニナリマシタ修正案ノ通りニナリマスレバ、政府ハ之ニ同意ヲ表シマス、既ニ之ニ同意ヲ表シマシタ以上ハ、成ルベク速カニ是ガ實施ヲ努メルコトハ勿論ノコトデアリマスガ、併ナガラ最早五年度ヨリ實施スルコト云フコトハ到底ハ不可能ノコトデアリマス、ソレ故ニ大正六年度ヨリ之ヲ實施スルコト云フ決心ヲ以テ、政府ハ是ガ準備ヲ致ス積デアリマス(拍手スル者アリ)唯之ヲ實施スルニ付キマシテハ即チ財源ヲ求メナクバナリマス、此財源ヲ造ルニ付キマシテハ、兩院ノ協賛ヲ經ナクバナラヌ事ガ多イノデアラウト思フノデアリマス、サスレバ兩院ノ協賛ヲ經テ決定致シタル財源ガ此ニ出來マスルマデハ、政府ハ必ズ實施スルコト云フ誓言ハ出來マセヌガ、成ベク大正六年度ヨリ實施スル決心ヲ以テ是ガ準備ニ從事致シマス云フコトハ、茲ニ誠意ヲ以テ聲明ヲ致シマス

(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 別ニ發議ハナイト認メマス、採決ノ順ヲ御諮リ致シマス、原案ト委員長ノ報告ト野村君ノ修正說デアリマス、野村君ノ修正說ガ成立致シマスレバ自然他ハ採決ノ必要ガナイノデ、若シ成立致シマセヌケレバ次ニハ委員長報告、次ニハ原案デアリマス、先ヅ野村君ノ說ニ付テ採決致シマス、野村君ノ修正說ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ乞ヒマス

起立者 滿場

○議長(島田三郎君) 全會一致ヲ以テ可決致シマス、野村君ノ修正說ニ決シマス(拍手起ル)

○福田又一君 直ニ三讀會ヲ開キ第二讀會決議ノ通り可決確定セラレムコトヲ望ミマス

軍人恩給法中改正法律案 第三讀會

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(島田三郎君) 福田君ノ御說ニ異議ガナイト認メテ本案ハ可決確定致シマス、左様致シマス次ニアリマス水津太郎平君提出ノ案ト柏原文太郎君ノ案ハ、自然ニ採決ノ必要ノナイコトニナリマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 次ニ移リマス、日程第二十二、鐵道建設ニ關スル建議案ヲ
議題ト致シマス、提出者松田源治君 暫ク 森環君ノ通知ガアリマシタカラ唯
今ノハ取消シマス 森環君

第二十二 鐵道建設ニ關スル建議案(松田源治君外四名提出)

鐵道建設ニ關スル建議案

一福岡縣下久留米ヨリ日田、玖珠兩郡ヲ經テ大分縣下大分ニ至ル鐵道
右鐵道ハ産業ノ發展ニ資シ交通ノ不備ヲ補フカ爲急欲ヲ要スルモノト認ムルヲ以テ
政府ハ速ニ調査ヲ遂ケ相當ノ措置ヲ採リ建議ニ著手セラレムコトヲ望ム
右建議ス

(森環君登壇)

○森環君 本案ハ久留米市ヨリ筑後川縁ヲ沿ヒマシテ、日田郡玖珠郡ヲ經テ大分
市大分港ニ連絡シマスルコトヲ九州橫斷線ノ一ツデゴザイマス、九州ヲ橫斷シマスル
鐵道ノ必要ナルコトハ、是ハ國家經濟ノ上ニ於キマシテモ、軍事上ニ於キマシテモ、最モ必
要ナコトデゴザイマス、本案ハ三十一議會ニ提出致シマシタケドモ、丁度停會中ニ會
期滿ヲ致シマシテ、委員會ノ審查モ終ラヌデ濟ミマシタウナ 次第デゴザイマス、是ハ地
方必要ノ急ニ迫リマシテ久留米市ヨリ日田町附近マデ、大分市ヨリ大分郡小野屋マ
デ、輕便式軌道式ヲ敷設シテ居リマシタケドモ、日田郡玖珠郡ノ臺地約四十哩マケハドウモ
民間デ之ヲ敷設スルト云フコトハ甚ダ困難ナコトデ、是非トモ 是等ヲ完成致シマス上ニ
付キマシテハ、政府ノ相當ノ御詮議ヲ得シレバナリマセス、此地方一帶ハ普通農業產
物ハ勿論、林産畜産養蠶業礦物ハ誠ニ豐富デゴザイマス、殊ニ豐筑肥三國國境ヨリ
玖珠郡ノ平家山一帶ニ互リマシタコトヲ森林及ヒ九重山硫黃礦ノ如キハ無盡藏デゴザ
イマス、又日出生臺ニ於キマシテハ、陸軍ノ射の演習地ガ出來マシテ、平時ニ於テサヘ
モ軍事上最モ必要ナモノデゴザイマス、又大分港ハ是等ノ線路ヲ期待シ豫定致シマシテ
築港ヲシマシタウナ 次第デゴザイマスカラ、政府ハ速ニ詮議シテ速成アラムコトヲ希望
致シマス、滿場御贊成アラムコトヲ希望致シマス

(拍手スル者アリ)

○福田又一君 本案ヲ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレムコトヲ望ミマス
○議長(島田三郎君) 福田君ノ說ニ御異議ナシト認メマス、議長指名九名ノ委員
ニ付託スルコトニ決シマス、日程第二十三、地方裁判所支部權限復活ニ關スル建議案
ヲ議題ニ致シマス、提出者樋口秀雄君

第二十三 地方裁判所支部權限復活ニ關スル建議案(樋口秀雄君外三名提出)

地方裁判所支部權限復活ニ關スル建議案

現行制度ニ於ケル地方裁判所支部ノ權限ハ甚ダ狹隘ニシテ權利ノ防護伸張ニ障
礙アリト認ム政府ハ宜シク之ヲ擴張シテ大正二年四月以前ノ權限ニ復活スヘシ其ノ
所要ノ經費ハ之ヲ大正六年度ノ豫算ニ計上セムコトヲ望ム
右建議ス

(樋口秀雄君登壇)

○樋口秀雄君 本案ハ御承知ノ通り昨年ノ特別議會ニ提出致シマシテ、滿場一致

ヲ以テ可決致シマシタ建議案アリマス、從ツテ政府ニ於テモ其趣意ヲ重要視致シマシテ、
昨年ノ豫算ニ編製スルマデニナツタノアリマスルガ、不幸ニシテ財政ノ現狀ノ爲ニ遂ニ實
行ニ至ラナカッタ次第アリマス、ソレ故ニ本年再ヒ此ニ提出致シタ次第アリマスルカ
ラ、改メテ説明ハ申上ゲマセス、唯今マデ日程ニ載リマセヌカ、今回ハ裁判所構成法中
改正法律案モ議院カラ提出致サレマシテ、恐ラク可決致スデアリマセウガ、サスレバ彼
大正二年ニ於テ改メマシタ區裁判所ノ權限ガ縮小致スデアリマスカラ、勢ヒ地方裁判
所ノ支部ノ復活ハ必然ノ結果トシテ實現スベキ事實デラウト思ヒマス、旁、滿場一致ヲ
以テ御審議ノ上御可決アラムコトヲ希望致シマス

(贊成々々ト呼フ者アリ)

○福田又一君 本案ハ指名十八名ノ委員ニ付託審查セラレムコトヲ望ミマス

○議長(島田三郎君) 福田君ノ御說ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 御異議ガナシト認メマス、福田君ノ說ノ通り議長指名九名ノ
委員ニ付託スルコトニ決シマス、日程第二十四、殖民省設置ニ關スル建議案、提出者
櫻井兵五郎君

第二十四 殖民省設置ニ關スル建議案(櫻井兵五郎君外一名提出)

殖民省設置ニ關スル建議案

歐洲列強ノ今日アル主トシテ其ノ殖民的政策ノ成功ニ基因スルハ言フ須ヒス我カ帝
國ハ比年人口ノ増加著シク内地ノ生存漸ク困難ヲ感スルノ秋辛ニシテ曩ニ日支條
約ノ成立スルアリ此ノ結果滿洲蒙古ニ於ケル帝國ノ地歩確立シ國運發展ノ好機眼
前ニ展開シ來レリ從來我カ新領土ノ經營固ヨリ見ルヘキモノナキニ非スト雖未タ一
定ノ經綸ト統制トラ缺クモアルハ吾人ノ深ク遺憾トスル所ナリ庶幾クハ此ノ際特ニ
殖民省ヲ設ケ民族ノ發展國力ノ増進ノ爲大ニ經綸ヲ行ハレムコトヲ
右建議ス

(櫻井兵五郎君登壇)

○櫻井兵五郎君 諸君、本案提出ノ理由ハ一々申上ゲマシレバ誠ニ數多イコトデアリ
マスガ、時間ノ關係上其最モ重要ナリト認ムル所ノ一二點ニ就テ申上ゲタイト考ヘルノ
デアリマス、其第一ハ殖民行政ノ統一デアリマス、現在ノ我が殖民地ハ臺灣、朝鮮、關
東州、其他樺太等アリマスケドモ、此間ニ殖民行政ノ何等ノ統制ガナシ、此殖民行
政ノ統制ガ無イタメニ、殖民地ニ於ケル所ノ移住民ハ非常ナル不便且不幸ヲ感ジッ、
アルト云フコトヲ認メルデアリマス、其内デ最モ甚シキ例ハ即チ彼ノ滿洲ニ於ケル所ノ
世ニ所謂三頭政治デアル、日露戰爭ノ結果ト致シマシテ、關東州ノ租借ガ成リ、南滿
洲ガ我勢力範圍ニ歸シテ此ニ之ヲ經營シ開發スルタメニ三箇ノ機關ガ現ハレタ、即チ關
東都督府、領事館、南滿洲鐵道會社、此三ツデアリマスガ、此三ツノ間ニ適當ナル所
ノ統制ヲ缺イテ居ルガ爲メニ種種ノ問題ヲ惹起スル、一々其例ヲ申シマスレバ幾ラモ材料
ハアルデアリマスガ、其實例ハ此ニ省クコトニ致シマス、或ハ領事館ト南滿洲鐵道ノ沿
線ノ間ニ於キマシテモ、此兩方ニ跨ガル所ノ事業ヲ計畫スル場合ニハ、此兩者ノ許可ヲ
受ケナケレバナラヌ、然ルニ一方ガ許可シテモ一方ガ許可シナイ場合ガ生ズル、或ハ司
法上ニ於テモ領事ハ初審デアッテ、關東都督ノ高等法院ガ終審デアル、其間ニ於テモ
種々感情ノ衝突ガアル爲ニ、領事ノ爲シタル所ノ裁判ハ、半バ以上關東都督府ニ於テ

破案セラル、ト云フ事實モアルサウデアリマス、免ニ此間ニ於ケル感情ガ面白クナイ、之ヲ認メテ前ノ關東都督ノ大島大將ハ、滿洲ノ領事ヲシテ都督府ノ事務官ヲ兼シメタト云フコトモアリマス、ケレドモ一方領事館ハ外務省ノ指揮ヲ仰ギ、之ニ反シテ關東都督府ハ多クハ陸軍大臣或ハ參謀本部或ハ教育總監部等ノ指揮ヲ仰グガ多クイデアリマス、而シテ其當局者モ亦軍人デアルト云フヤウナ關係上、折合ガ著カナイデアル、又終ニハ朝鮮總督府ト滿洲鐵道會社トノ關係デアリマスガ、此間ニモ非常ナ不統一ガアル、朝鮮ハ純然タル我領土デアル、南滿洲ハ單ニ我が勢力範圍デアリマスカラ、之ヲ打ッテ一丸トシテ行政組織ヲ立テト云フコトハ、無論不可能ノ事デアリマセウ、併ナガラ少クモ經濟上ニ於テハ之ニ十分ノ聯絡アラシメナケレバ、我國ノ大陸政策ノ根本ガ立タナイデアラウト思フデアリマス、經濟上ノ機關ニ於テハ十分ニ聯絡ヲ保シムベキ管デアルノニ、ソレヲ現在缺イテ居ル、其例ヲ申シマスレバ朝鮮鐵道ト南滿洲鐵道會社トガ資金ノ競争スラヤル、大正三年中頃デアリマシタカ、一時問題ヲ惹起シタコトガアル、即チ朝鮮總督府ハ内地ト滿洲トノ貿易ヲシテ朝鮮ヲ經由セシメ、成ルベク朝鮮ヲシテ收入ヲ多カラシメタイト云フ希望ノ下ニ、内地カラ奉天ニ直通スル貨物ニ對シテハ、大連ヨリ奉天ニ至ルモノト同一ノ資金ニスルト云フコトヲ鐵道院ニ交渉ヲシテ、サウシテサウ云フコトニ致シタ所ガ、南滿洲鐵道會社ハ内地トノ貿易ノ聯絡ハ大連ヲ中心トシタ、サウシテ南滿洲鐵道會社ノ收入ヲ多クシタイト云フ其方針ヲ致シテ、此朝鮮鐵道ノ執事所ノ處置ハ非常ナル打撃デアル、是ニ於テカ又鐵道院ニ苦情ヲ申出テ、終ニ内地ヨリ滿洲ニ直通スル貨物ニ對シ、朝鮮鐵道ノ場合ト同様ノ割引ヲスルト云フヤウナコトニナツテ、初メテ落著致シタコトモアルデアリマス、齊シク我殖民地經營ノ眼孔カラ見レバ、目的ヲ等ウスル所ノ機關デアル、朝鮮ハ我領土デアル、滿洲ハ即チ其外壁デアル、然ルニ此民間ニ此ノ如キ而モ經濟政策ノ上ニ於テ斯ノ如キ矛盾ヲ來シテ居ルト云フコトハ、一體當局者ハ之ヲ何ト認メテ居ルデアラカ、又臺灣ニ付テ見マシテモ殖民行政ニ關スル所ノ一定ノ統制ガナイ爲メニ、彼等ハ勝手ナ事ヲ行テ居ル、其爲メニ總督ガ代ハリ、民政長官ガ交渉スル毎ニ政策ノ變ズルハ別ト致シマシテモ、全ク行政ガ腐敗シテシマフ、臺灣樺太等ニ於テ非難ノ多クイモ、ソマリ中央ニ於テ監督官廳ガ無ク之ヲ統制スル者ガナイ爲メニ、彼等ハ勝手氣儘ニ赴ク結果デアルト本員ハ認ムルデアル、是ハ行政上ヨリ見タル點デアリマスガ、次ニモウ少シ進ンデ——少シデナイ、大ニ進ンデ積極的ニ殖民ヲヤラナケレバナラス所ノ我國ハ運命ヲ有テ居ルト本員ハ信ズル、其ハ即チ人口ノ點ヨリ考ヘルデアリマス、人口問題デアル、我國ノ人口ハ過去五十年間ニ於テ約二千二百萬ノ増加ヲ見テ居リマスガ、此内外國ニ移住シタモノハ幾千アルカト考ヘテ見マシマス、八十萬人ニ足リナイデアル、五十年間ニ二千二百萬ノ増加ヲ見テ、其内八十萬ニ足リナイ移住デアリマス、今日迄ハ是デ宜カッタカモ知ラナイ、ソマリ内地ニマダ人口ヲ入レ得ル所ガアツタカラ是今日迄ハ足リタカ知レナイガ、今後ハ決シテ斯ル移住ノ有様デハ由シキ問題ヲ惹起スルト思フデアリマス、其問題ハ何デアルカ、即チ人口ガ殖エル、之ヲ送り出スコトガ出來ナイト云ヘバ生存競争ガ烈シクナル、殊ニ下級民ノ生活ガ壓迫セララルコトニナツテ、或ハ營養不良ヲ來スコトモアラウシ、其他段々衛生上ノ關係ヨリ死亡率ガ殖エルトニナルデアラウト思フ、ノミナラズ智識階級ニ於テハ人爲的ニ家族ノ殖エルトヲ防ガウトスルノ傾向ガ起リマシタナバドウデアル、實ニ國家ノ前途ニ取リテ由シキ大事ナリト本員ハ信ズルデアリマス、我國ガ此ノ如ク人口ガ増加スルカラ我國ノ前途ニ於テ非常ニ希望ガアルデアル、然ルニ佛蘭西ノ如ク其人口ガ是レ

以上増加シタイト云フコトデアラバ、我國ノ現在ノ此六千萬内外ノ人口以上ノ帝國ニナルコトハ出來ナイト云フコトヲ意味スルデアリマスカラ、非常ニ國家ニ取ッテ大問題デアラウ、然ルニ一度此人口ガ出產率上ノ減少ヲ來サウナ傾向ガ現ハレタナラバ、之ヲ挽回スルコトハ容易ナコトデアナイト本員ハ信ズル、是ハ實ニ大問題デアルト考ヘルデアリマス(簡單々々ト呼フ者アリ)ドウモ今日マデハ斯ル人口問題ノ上カラ考ヘテモ、洵ニ殖民ヲ獎勵スルト云フコトハ重要ナコトデアルニ拘ラズ、政府トシテハ何等施設モ取ッテ居ナイト云フコトヲ本員ハ認メマス、偶、明治四十二年ノ頃デアリマシタカ、時ノ外務大臣小村侯爵ハ、今後ノ我國ハ滿洲ニ向ッテ移民ヲ集注スルト云フヤウナ何カ方法ヲ政府ガ取ッタコト云フコトヲ考ヘルニ、何等方法モ取ッテ居ナイ、現ニ朝鮮總督府ノ如キハ移民招致ニ關スル何等施設モ取ッテ居ナイ、移民招致ノ事柄ヲ彼ノ併合ノ以前ノ歴史ノ遺物トモ見ルベキ東拓會社ニ一任シテ居ル、東拓會社ハ政府ヨリ補助金ヲ受ケテ熱心ニ之ヲ行ッテ居ルカト云ヘバ、其補助金ハ移民以外ニ使ハレテ居ルト云フ非難ヲ受ケテ居ル、成程今日マデ二百四五十萬圓ノ補助金ヲ受ケテ居リナガラ、漸ク移民ノ戶數ハ三千ニ過ギナイ、即チ一戸ニ付テ七八千圓ノ費用ヲ掛ケテ居ル計算ニナルデアリマス、東拓會社ソレ自身ニ於テモ、此ノ如ク移民ニ對シ不眞面目デアルト云フコトヲ認メルデアリマス、朝鮮ハ御存知ノ如ク溫帶殖民地デアツテ、ドウシテモ我國ノ移住ニ關シテハ重要視シテ、直ニ此方面ニ移民ヲ遣ラナケレバナラス所ノ我國ハ認メマス、小村侯爵ノ聲明以來六年、漸ク朝鮮ニ對シテ十五萬人位往ッテ居ルト思ヒマスガ、是ハ政府ガ獎勵シタ結果デハナイ、自然ニ流レテ行ッタモノニ過ギナイデアル、人口問題ヨリ致シマシタモドウシテモ殖民政策ヲ積極的ニ帝國ガ立ナケレバナラヌト云フコトハ、我國ノ人口ノ密度ノ上カラ考ヘテモ、サウ斷定セザルヲ得ナイデアリマス、我國ノ人口ノ密度ハ世界ニ於ケル第三次デアリマスガ、白耳義ガ一方哩六百六十五人、英吉利ガ三百七十三人、日本ガ三百四十人デアリマス、成程是等ノ比較カラ見テ白耳義位ノ人口ガ這入ルモノト致シマスレバ、未ダ五千萬位ハ内地ニ這入ルト云フコトモ言ヒ得ルデアリマシタカ、申スマデモナク白耳義ハ殆ド平坦ナ國デアツテ、其耕地ノ如キモ總面積ニ對シテ百分ノ五十三以上デアル、然ルニ我國ノ耕地ハ總面積ニ對シテ百分ノ十四デアツテ、十五度以下ノ傾斜ノ地ヲ開拓スルト致シマシテモ尙百分ノ二十六ヲ超ヘナイ、此比例ヨリ致シマスレバ英國ヨリ少シ多イ位シカ人口ガ這入ラヌト思ヒマス、併ナガラ内地ノ今後商工業ノ發達ヲ條件トシテ如何ニ這入リ得ルト見テモ、一千万ヲ超エルトハ多クナラウト信ズルデアリマス、然ルニ一方今日ノ趨勢デハ六十萬以上ノ人口ノ増加ヲ見テ、而モ其内一割弱ノ移住シカ見ナイ、斯ウ云フ關係係進ンダナラバ人口問題ノ上ニ我國ハドシテモ行詰ラナケレバナラスト考ヘル、ドウシテモ政府トシテハ今後積極的ノ殖民政策ヲ立ナケレバナラス、ソレニ付テハドウスルカト申シマスレバ、之ヲ今日ノヤウナ支離滅裂ナヤウナ殖民地ノ行政機關ニ依頼シテ置イテハ、斯ル大事業ハ出來ナイト本員ハ信ズル、中央ニ殖民省ヲ置イテ先キ申シタ殖民行政ヲ統一シテ、移住民ノ幸福ヲ圖ルト云フコトニシ、一方ニ於テハ殖民省ヲ主管トスルトコロノ國務大臣ヲ置イテ、殖民ノコトニ付テ専心ニ之ヲ研究シ、或ハ之ヲ閣議ノ問題トシ、或ハ議會ニ訴ヘ、或ハ國民ノ輿論ヲ喚起シ、又思想ノ上ニ於テモ餘程國民ニ變化ヲ與ヘナケレバ我國ノ殖民ガ盛ニナラスト云フコトガアリマスカラ、此ニ專任ノ主務大臣ガ出來ナケレバ、是等ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイト本員ハ信ジテ此案ヲ提出シタ

ノデアリマスガ、或ハ事柄ハ善イガ併ナガラ國費多端ノ折カラ、是ガ爲ニ國民ノ負擔ヲ増スト云フコトハ考ヘモノデアルト云フヤウニ、御考ニナル方モアルカモ知ラヌト思フデアリマスガ、決シテコレハ御心配ハイラヌト信ズル、何故ナレバ現在ノ我殖民行政ヲ整理スレバ、殖民省ヲ置クニ餘リアル費用ヲ得ルト本員ハ信ズルデアリマス、コレハ此現在ノ殖民地方官吏ハ内地ノ官吏ヨリハ四割乃至八割ノ俸給ノ上ニ於テ加俸ヲ受ケテ居ル、或ハ始メテ殖民地ガ出來タ頃ニ於キマシテハ、サウ云フ事柄モ多少必要ノ事情ガアツタカ知ラヌト思フデアリマス、ケレドモ今日ハ四割乃至八割ト云フヤウナ大キナ加俸ヲスル必要ハ最早無イト思フデアリマス、彼等ノ生活ヲ維持セシムル上カラ考ヘ、即チ生活品ノ價ニ付キマシテ考ヘマシテモ、決シテ内地ヨリ高クナイデアリマス、其他俸給以外ニ幾多ノ特典モアリマスカラ、是等ノ加俸ノ幾分ヲ減ズルコトハ今日ニ於テ差支ナイ、コレガ爲ニ低能官吏ヲ得ル、内地ノ官吏ニ比シテ惡イ官吏ノミヲ得ルト云フ憂ハナイト思ヒマス、人材供給ハ多イデアリマスカラ、而シテ此加俸ガ幾何アルカト云フコトヲ調ベテ見マスト云フ、朝鮮ニ於テ二百二十万、臺灣ニ於テ二百二十万以上アルデアリマシテ、併シテ五百万以上アルデアリマス、此中ノ二割ヲ減ズルト致シマシテモ、裕ニ百万圓ヲ出スコトハ出來ル、百万圓アレバ殖民省ヲ置クニ餘リアルト考ヘルデアリマス、又此加俸ノ問題ハ別ト致シマシテモ、前ニ申上ケマシタコトノ、所謂滿洲ノ二ツノ機關、其中ノ關東都督府ヲ廢スルト云フコトハ、却テ此行政ノ統一上宜カラウト云フコトモ考ヘルデアリマス、都督府ハ御存知ノ通り民政部ト軍政部トアルケレドモ、軍政部ノ方ハ是ハ朝鮮總督府ニ委任シテ宜カラウト思フデアリマス、民政部ノ方ハ現ニ南滿洲鐵道會社ノ沿線ニ於ケルコトノ行政ニ關スル或ル事柄、例ヘバ、教育、産業、土木ト云フ事柄ニ對スル行政ハ、鐵道會社ガ執テ居ルデアリマスカラ、此方面ニ持テ行テ行政部ヲ移スコトハ差支ナイ、漸ク二百方哩ニ足ラザル關東州、所謂新滿洲ノ半分ニシカ方ラス、關東州ヲ統括スルニ今日約四百五十方圓ノ經費ヲ投ジテ居ル、其内二百方圓ハ年々國庫カラ支給シテ居ル、之ヲ朝鮮總督府ト南滿洲鐵道會社ニ此事務ヲ持ッテ行クコトニ致シマシテ、少クモ國庫ノ二百方圓ノ支給ハ省クコトガ出來ルト思フデアリマス、然レバ此費用ヲ以テ殖民省ヲ置クコトシテモ、尙裕ニ餘リアルコトヲ本員ハ信ズルデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテ、現在ノ殖民行政ヲ統一シ、我帝國ノ殖民政策ノ根本方針ヲ確立シ、是等ノ事柄ヲ爲スニ方デモ現在ノ殖民行政ノ整理ニ依テ其費用ガ餘リアルト云フコトデアリマスレバ、最早何人モ異存ハアルマイト考ヘル、政府モ之ニ對シテ不同意ヲ唱ヘル論據ハ最早アルマイト考ヘルデアリマス、帝國ノ運命ヨリ考ヘマシテモ、ドウシテモ斯ノ如キ方針ヲ以テ進ミ、今日ノ勢力範圍ノミナラズ、百年ノ計ヲモ考ヘテ置カナケレバ、是ガ外交上ノ關係ト相結シテ、將來ニ至大ナル關係ヲ持ッテ居ルト考ヘルデアリマスレバ、是非共此際殖民省ヲ設置シタイト考ヘルデアリマス、願クハ滿場ノ諸君ノ御贊同ヲ得テ、其目的ヲ達シタイト切ニ希望ニ堪ヘヌ次第デアリマス(拍手起ル)

○相島勘次郎君 チョット提出者ニ質問ガアル、是ハ斯ウ云フ議案ハ殆ド理想的ノヤウナコトデアリマシテ、深ク御尋ラスルニ及バヌヤウナ譯デアリマスガ、併ナガラ斯ウ云フ案ガ與黨ノ方カラ出ルト云フコトニナレバ、何カ政府ト相折衝スル所ガアツテ、或ハ本物ニナルカモ知レマセヌガ、私ハ此場合慎重ニ聞イテ置キタイコトガアル、提出者ハ此殖民行政ノ統一ヲスルト云フコトヲ第一ノ目的ニサレテ居ルデアルガ、日本ノ此殖民行政其他ニ付テハ統一モ付カス、又本統ニ此殖民ト云フ趣意ヲ徹底シナイノハ、何カ病ヲ

爲シテ居ルカト云ヘバ、總督政治ガ病ヲ爲シテ居ルデアル、朝鮮ニ於テ然リ、臺灣ニ於テ然リ、滿洲ニ於テ然リ、此總督政治ト云フモノヲ打拂テシマツテ、本統ニ此統一ヲサレルト云フ決心ガナケレバ、斯ウ云フ一省ヲ置イテモ何モナラヌトデス、總督政治ノ弊害ニ付テハハナタモ認メテ居ルデアリマセウ、コレ故ニ私ハ斯ウ云フ役所ヲ立ルニ付テハ、總督政治ヲ追拂テシマフコトヲ所ノ決心アリヤ否ヤト云フコトヲ、第一ニ伺ヒタイ、第二ノ問題ハ、移民殖民ノ御世話ヲナサルト云フコトデアルガ、サウ云フコトノ世話ヲスルタメニ、一省ヲ置カナケレバナラヌト云フコトモアリマス、其主義トシテ世ノ中ノ非難ガアルカモ知レナイケレドモ、此ニ進シテ侵略的ノ主義ヲ定メル、唯平和ニ何處マデモ亞米利加ニ排日論アリテ起レバツレラ融和シテ行ク、或ハ亞米利加ヘ行ケバ移住國籍問題ヲ望ム、亞米利加人デアレバ何處ヘ行ツモ宜イ、日本人ガ亞米利加人ニナレバ殖民ガ出來ルト云フガ如キ姑息ナルコトデアレバ、一省一官ヲ置ク必要ハナイ、コレ故ニ殖民省ヲ置イテヤルトスレバ、世ノ非難ヲ顧ミズ飽迄モ侵略主義ヲ執ルト云フコトニ對シテ徹底シタ主義ヲ定メテ御遣リニナルカドウカ、此點ヲ伺ヒタイデアリマス

○櫻井兵五郎君 御答ヲ致シマス、總督政治ヲ追拂テシマフコトハ、ドウ云フ意味カ能ク分リマセヌガ、多分今日ノ總督ノヤウナ權限ヲ持タシテハ、中央ニ一省ヲ置イテモ統一ハ出來マイト云フ意味デアラウト思ヒマスガ、無論其意味デアレバ同意デアリマス、中央ニ一省ヲ置ク以上ハ、豫算ニ關シテモツレニ權力ヲ握ラス、而シテ總督官制ヲ變ヘ統一ヲシナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、コレカラ第二ノ御質問ニ對シテハ、侵略主義ヲ執ツテ進ムカ否ヤト云フ御尋デアリマスガ、私ハ左様ニ考ヘナイ、侵略カ何カハ知ラヌケレドモ、我帝國ガ此人口増加ノ趨勢ヨリ鑑ミマシテ、大ニ膨脹ヲシナケレバナラヌト云フ運命ヲ持ッテ居ル、此運命ニ對シテ適當ノ施設ヲスルト云フコトガ、政府トシテハ當然ノ責務デアルト斯様ニ考ヘルデアリマス、或ハ此目的ノ爲メニ種々ノ障礙ヲ見ルコトハアリマセウ、併ナガラ其場合ニ於テハ、我國家ノ力ヲ以テツレバ避ケラレルダケハ避ケ、或ハ推進ムダケノコトハ推進シテ行クト云フコトヲ、根本ニ持ッテ居ラナケレバナラヌト信ジテ居リマス

○福田又一君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託シ審査セラレムコトヲ望ミマス
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(島田二郎君) 御異議ナシト認メテ議長指名九名ノ委員ニ付託スルト云フ福田君ノ說ニ決シマス、日程第二十五、鍋田川及木曾川ノ一部改修ニ關スル建議案、提出者三輪市太郎君

第二十五 鍋田川及木曾川ノ一部改修ニ關スル建議案(三輪市太郎君外五名提出)

鍋田川及木曾川ノ一部改修ニ關スル建議案

鍋田川及木曾川ノ一部改修ニ關スル建議案

鍋田川沿岸ノ被害及名古屋港口ノ土砂埋没ヲ防止スル爲木曾川幹流トノ分岐點ニ於テ閘門ヲ設置シ以テ洪水ヲ阻止シ平水ニ在リテハ舟筏ノ通航ヲ防

ケサルノ設備アラムコトヲ望ム

二 木曾川ノ愛知縣中島郡長岡村大字神明津地先ニ於テ左岸堤防屈曲突出シ其ノ幅員狹窄セル爲洪水ノ都度其ノ箇所ハ勿論上流ノ危險甚シキヲ以テ速ニ

之ヲ開鑿擴張工事ヲ施シ幅員ノ平準ヲ得ヒシメラレムコトヲ望ム

右建議ス
(三輪市太郎君登壇)
(拍手起ル)

○三輪市太郎君 議題トナリマシタル鍋田川及木曾川ノ一部改修ニ關スル建議案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマスルガ、本案ハ大局ヨリ見レバ小問題デアリマスルガ、此關係ノ地方住民ニ取リマシテハ、建議案ノ結果如何ニ依テハ安危ノ岐ル、重大問題デアリマスル(ヒヤ／＼)「ノウ／＼」ト呼フ者アリ)私モ提出者ノ責任上若シ此建議ノ理由ニ聊カタリトモ相違ガアツテハ相濟マスト思ヒマシテ、此提出後ニ於キマシテ更ニ實地ヲ踏査致シマシタル所、少シク此理由書ニ書キ列セタル所ト相違スル所ガアリマスデ、説明ニ先チマシテ先ツ其間違ハ點ヲ訂正致シマス、此理由書ノ中ニ「木曾川流水ノ過半ハ」ト書イテアリマシタガ、是ハ過半デハナイ「半」ト訂正ヲ致シマス、次ニ「鍋田川ハ其幅員僅ニ數間ヲ超ヘザルヲ以テ」トアリマスガ、數十間乃至百間アル處ガアル、百間程モ幅員ノアル處ガアリマスルカラ、是デケラ訂正シテ置キマス、ツコデ此本案ノ中、先以テ鍋田川ノ改修ヲ要スルコト云フ所以ヲ、成ベク簡單ニ説明ヲ致シマスルガ、隨分御倦怠ノヤウデモ在ラレマスルガ、暫時御清聴ヲ願ヒマス(「謹聴タタ」マダ時間ガ早イ)「成ベク長クヤリ給ヘ」ト呼フ者アリ)鍋田川ハ御承知ノ如ク木曾川ノ支流デゴザイマシテ、海口ヨリ二里程上流ニ於キマシテ分岐點トナツテ居ルノデゴザイマスルガ、此本流ノ木曾川タルヤ、先年改修工事ヲ施サレマシテ、其當時此支流ナルモノハ堰止メルノ計畫デアツタ、ツレガ爲メニ其分岐點ヨリ末流ニ於キマシテハ、五百間乃至六百間ノ幅員ヲ以テ改修ヲサレタルモノデゴザイマシテ、分岐點ヨリ上流ト比較シテ見マスレバ、二百間以上ノ此幅員ニ差ガアルノデゴザイマス、然ルニ其鍋田川ナルモノガ今日マデ存置サレテ居ルノハ何ガ故デアアルカト云ヘバ、名古屋港頭ニ通ズル舟筏等ノ此通航ノタメニ、廢川スルコトニ至ラスシテ、今日存置サレテ居ルモノデゴザイマスル、所ガ其鍋田川ナルモノ、河底ハ幹流ノ木曾川ト比較シテ見マスレバ餘程低イ爲メ、水勢ハ低キニ赴クコトハ自然ノ道理デアリマシテ、此支流ノ僅ニ數十間乃至百間ヲ越エナイトコロノ川ニノミ水勢ガ進ムガ故ニ、今日デハ河底ヲ深クナシタルノミナラス、遂ニハ堤防ノ基礎ヲモ洗ヒ去リマシテ、今ヤ實際ニ危險ノ状態デゴザイマス、之ニ反シテ木曾川ナルモノハ今申ス如ク五百間乃至六百間ノ幅員ガアリマシテ支流ニ、水勢ノ進ム爲メニ、幹流ハ遂ニ緩慢トナツテ爲メニ土砂ガ堆積シテ、益々支流ノ沿岸ニ被害ヲ加ヘ、改修以後ニ於テモ既ニ三回程モ堰堤ヲ致シテ、其沿岸ノ住民ガ洵ニ悲慘ヲ極メテ居ルノデゴザイマス(「ヒヤ／＼」「ノウ／＼」)「謹聴」ト呼フ者アリ)併シ政府ノ技術者ニ於テモ今日アル豫知サレタルモノカ、其改修當時ニ於テ長良川トノ分岐點ニ於キマシテ洗堰工事ヲ施シテ、即チ此鍋田川ノ水量ヲ制限シ且ハ河底ノ掘鑿ヲ防止スルノ目的デ、サウ云フ施工ガ致シタルノデゴザイマスガ、當時ハ幾分ノ效果ハアリマシタガ、改修以後ニ於キマシテ今日デハ木曾川ノ幹流ノ河底ナルモノハ、數尺河底ガ高クナリマシタガ爲メニ、其洗堰ナルモノハ一嚮效果ヲ奏シナイ、寧ロ其洗堰ガアルガ爲メニ却テ此落差ガ出來マシテ、益々鍋田川ノ河底ヲ洗ヒ去ルト云フコトノ結果ニナツテ居ルノデゴザイマス(「ヒヤ／＼」ト呼フ者アリ)此ニ於テ鍋田川ノ護岸工事ナルモノハ、右申ス如ク河底ヲ洗ヒ去リ既ニ基礎ヲ危クシタ爲メニ、到底護岸工事ノ施シヤウモナイ、洵ニ危險ニ瀕シテ居ルノデゴザイマスルガ故ニ、此問題ニ就テハ既ニ三重縣會ニ於テモ數年以前ニ全會一致ヲ以テ、此堰止ノ建議案

ヲ内務當局者ニ請願ヲ致スノミナラス 建議案ヲ提出ヲ致シタルノデゴザイマス、所ガ其三重縣ヨリ提出致シマシタル趣旨ハ、此鍋田川ヲ堰止メルト云フノ趣旨デアリマシテ、是ハ當時内務當局ノ採用サレナカッタノデゴザイマスルガ、其後鍋田川ノ狀況ハ今申ス如クノ有様デ、ツレガ爲メ名古屋港ノ土砂ノ埋没スルノハ此鍋田川ノ爲ニ年々増加スルノ傾キガアリマシテ、此名古屋港ノ維持ニモ非常ニ困難ヲ感ズルガ故ニ、昨年愛知縣會ニ於テモ是亦此鍋田川ノ改修ノ建議案ヲ出シタルノデゴザイマスルガ、此趣旨ハ少シク三重縣トハ趣キガ異ナリマシテ、名古屋港ヘ通ズル所ノ舟筏ノ通行ヲ妨ゲナイヤウ河口ニ開門ヲ施設シテ、平水ハ此開門ニ依テ舟筏ノ通行ノ便ヲ計リ、一朝洪水ノ場合ハ之ヲ閉鎖シテ本流ニ依テ放流スルコト云フノ趣旨デゴザイマシタ、右ノ如クノ次第デアリマシテ此ノ鍋田川ヲ存置サレマシタル趣旨、即チ舟筏ノ通行ノ上ニ於キマシテハ開門ヲ施設スレバ何等ノ支障モ來サズ、之ヲ堰止メマスレバ名古屋港ノ埋没ヲ防止スルノミナラス、沿岸ノ多年ノ此罹災住民ヲ救済スルノ案デゴザイマシテ、又經費ノ點ニ於キマシテモ此鍋田川ヲ堰止メタル以上ハ、兩岸ノ不用ノ堤防即チ堤防ヲ縮小スル爲メニ用地ガ出來、又河幅ハ舟筏等ヲ通ズル爲メニハ又縮小シテモ宜シイ、此不用地ノ公賣金ヲ以テ此事業ノ經費ヲ支拂ヒマシテモ尙餘リアルコトハ明ナル計算デゴザイマスルカラシテ、ドウカ此點ハ國家經濟ノ上カラモ且亦罹災民ヲ救助スル上ニ於テモ、先ツ第一項ハ御賛成ヲ願ヒタイノデゴザイマス(「贊成」ト呼フ者アリ)第一ハ是ハ簡單ナル問題デゴザイマシテ、是モ木曾川改修ヲ先年施行サレル當時ニ一度杭ヲ折入レラレテ、堤外地ハ土地ヲモ使用サレマシタケレドモ、如何ナル所以ニヤ終ニ此終點ノ即チ愛知縣ノ河川郡長岡村地先ニ於テ、遂ニ之ヲ打切ラレタノデゴザイマスルガ、此處ハ此愛知縣ノ河川ノ圖面ヲ御一覽ヲ願ヘバ忽チ分ルコトデゴザイマスガ、此地先ニ於テ堤防ガ屈曲致シテ其處デ非常ニ狹クナツテ居ルノデゴザイマス、是ガ爲メ其上流ノ水位ガ上騰シテ岐阜縣愛知縣ノ兩岸堤防ガ甚ダ危險ヲ感ズ又狹イ所ハ年々洪水ノ度毎ニ危險ヲ見ル爲メ、維持ニ非常ニ苦シテ居リマスガ故ニ、此僅ノ間ヲ上流ト下流トノ幅員ノ平準スルヤウニ改修ガ致シタイト云フガ趣旨デゴザイマスルガ、之ヲ拋棄シテ置イテ一朝破壊デモ致シタラバ、此地方ハ數千町歩ノ利害關係ヲ及ボス、而モ木曾川ノ激流ナルガ故ニ唯財產上ノ被害ノミナラス、生命ヲ失フガ如キ虞モアルデゴザイマスデ、ドウカ是モ併セテ満場一致ヲ以テ御賛成アラムコトヲ切ニ希望致シマス(「拍手起ル」(「贊成」ト呼フ者アリ)○福田又一君 本案ヲ議長指名九名ノ委員ニ付託シ審査セラレムコトヲ望ミマス(「贊成」異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイト認メテ議長指名九名ノ委員ニ付託スルコト云フ福田君ノ説ニ決シマス、日程第二十六、輸出品粗製濫造防止ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者小山松壽君

第二十六 提出

輸出品粗製濫造防止ニ關スル建議案

輸出品粗製濫造防止ニ關スル建議案

輸出品ノ粗製濫造ノ弊ヲ論セラルルヤ久シ然レトモ之ニ處スルノ方法未タ具體的ノモノアルヲ聞カス今ヤ歐洲戰亂ノ結果我カ國輸出品ノ販路ヲ擴大スルト同時ニ益矯

弊ノ途ヲ講シ以テ對外商業ノ基礎ヲ確立スルハ一日モ忽ニスヘカラサル切要ノコトニ
屬ス政府ハ速ニ案ヲ立テ提出セラレムコトヲ望ム
右建議ス

〔小山松壽君登壇〕
〔拍手起ル〕

○小山松壽君 本案ハ時局ニ鑑ミマシテ、工業ニ關聯シテ對外商業基礎ノ上ニ重
大ナル關係ヲ持チマスモ、アルリマスカラ、聊カ説明ヲ加ヘテ置キタイト存ジマス、此組
製造防止ノコトニ關シマシテハ、歴代ノ當局者ニ於テ始終研究サレマシテ、朝野共ニ此
事ニ就テハ研究ヲ怠ラナイ問題デアリマス同時ニ、即チ桂内閣ニ於テハ生産調査會
ヲ起サレテ此問題ノ研究ヲ遂ゲラレタデアリマス、政友會ニ於テハ元田肇君或ハ岡崎
邦輔君、又中正會ノ早速整爾君並ニ同志會ノ片岡直溫君アリ當時ノ生産調査
會ノ委員デアラレタト承知シテ居リマス、又下岡忠治君ノ如キ當時ノ當局者デ
タデアリマス、而シテ其結果不正競争防止法案ト云フモノノ制定ヲ見マシテ、之ニ對
シテハ各方面ニ於テ議論モアリ或ハ會議所等ニ諮問サレタ問題デアリマシテ、是等ノ法
案ノ成立ヲ見ルコトニ至リマスレバ、時局今日ノ如キ場合ニ處シテハ極メテ有益ナルモ
デアッタラウト考ヘルデアリマスガ、遺憾ナガラ其案ノ實施ヲ見ナカッタコトヲ今日ニ於テ
甚ダ寒心ニ堪ヘヌモデアルト考フルデアリマス、一昨年ノ十月大浦農商務大臣ガ貿易
協會ノ招キニ應ジテ次官局長等ヲ伴フテ之ニ對シテ講話モ公ニサレテ居リマス、素ヨリ
此組製造防止申シマシテモ歐米ノ商業道德等ニ比較致シマシテ、我國ノ商業道德ノ根
本ニ於テ聊カ異ナル所モアルデアリマスガ、經濟ノ上ニ於キマスル技術並ニ組織ノ發達
等ガ何レモ小規模デアリマシテ、家内工業或ハ手工工業ト云フヤウナ關係上、其製品ノ
統一ヲ缺キ之ヲ集メルコトニ於テ手數ヲ要シ、遂ニ契約ノ期限ヲ間違ヘルト云フヤウナ
コトモ往々アリマス、隨テ又資本ガ薄キ關係ヨリ致シマシテ、遂ニ其利ヲ追フ、即チ
目前ノ小利ニ是レ日モ足ラヌト云フ結果ガ組製造防止ノ弊ヲ致スコトヲ考ヘルデアリマ
ス、素ヨリ我國ノ如キ後進國ニアリマシテ、其對外輸出品ノ關係ヲ調ベルニ當リマスガ、其
對手國ノ富ノ程度並ニ人情風俗嗜好等ノコトヲ考ヘナケレバナラヌモデアリマスガ、是
等ニ付テハ英吉利ガ嘗テ本國ノ商品ヲ本位ニ致シマシテ、殖民地並ニ後進國ノ輸出致
シマシタ當時ノ先例ニ失敗ノ事實ガアリマシテ、是等ノ失敗ニ鑑ミテ獨逸ガ其對手國ノ
關係等ヲ綿密ニ調査致シマシテ、遂ニ南米南洋並ニ支那貿易ニ於テ英吉利ノ販路ヲ
侵略シテ、獨逸隆盛ノ時代ヲ最近ニ見ルニ至ッタト云フヤウナコトハ、大ニ考慮スベキコト
ト考ヘルデアリマス、併ナガラ此組製品ト申シマシテモ、一方ニ於テ對手國ノ民度ニ關
係致シマスルカラ、絕對ニ組製品ヲ禁ズルコトニ於テハ、大ニ考慮スベキコトデア
ルト云フ御説モアリマスガ、組製品ト廉價品トハ自カラ其間ニ區別スベキモノナリト考ヘル
デアリマス、例ヘバ火ヲ發シナイトコロノ燐寸トカ、或ハ數日ノ使用ニ堪ヘナイトコロノ
蠟燭燭アルトカ、或ハ動かザル時計ノ如キモノハ價廉ナリト雖モ、是等ハ其販路ヲ將
來ニ失フニ於テ、且我國輸出品ノ聲價ノ上ニ於テ多大ニ其信用ヲ傷ツケルモノナリト
考ヘルデアリマス、我國ニ於テ生絲羽二重、是等ノ輸出品ニ對スル政府ノ方針ト致
シマシテ、遂ニ蠶病豫防或ハ蠶種統一ト云フヤウナコトヲ爲シ、若クハ花莖ノ検査ト云
フヤウナコトガアリマシテ、其結果ハ我國ノ輸出品ノ聲價ヲ高メテ參ツタデアリマス、最
近ニ於テ南洋ノ調査ヲ遂ゲテ歸リテ參リマシタ者ノ話ニ依リマスルト、蘭領印度ニ於テ四
十四隻、米領ニ於テ十九隻、暹羅ニ於テ九隻ト云フ何レモ三千噸以上ノ獨逸汽船ガ

此中立港ニ抑留サレテ居ルコトヲ聞イタデアリマス、三千噸以上ノ七十二隻ノ
獨逸汽船ハ即チ東洋ニ於ケル貿易關係ノ機關デアリマシテ、是等ノモノガ抑留サレ、同
時ニ獨逸ガ東洋ニ於ケル貿易ノ航路ヲ失ヒ、唯一ツ歐洲交戰國ノ英本國ガ僅ニ東洋
ニ於ケル貿易ヲ致シテ居ッタデアリマスガ、御承知ノ如ク地中海ノ航路危險ナルト共
ニ、喜望峯迂回ヲ取リマシタル結果ト致シマシテ、是モ其東洋ニ航路ヲ乏シクスルコト
フコトニナリマシタカラ、此ニ於テ殆ド東洋ノ貿易及是等ニ連續致シテ居リマスル南米
貿易等ニ對シテハ、我國ガ獨占ノ舞臺ニナルト云フヤウナ狀態ニアリマス、是ニ於
テ此販路ノ擴大ト共ニ、商人ノ間ニ於テ此處ニ競争ヲ惹起シ、其結果組製造防止
ルト云フコトハ、是ハ免カレヌコトデアリマシテ、此點ハ大ニ政府當局者ニ於テ慎重ノ注
意ヲ要スベキコトヲ考ヘルデアリマス、御承知ノ歐洲戰亂ノ前途ハ如何ニナリマスカ、假
ニ平和克復ガ近キ將來ニアリト致シマシテモ、此國內ノ秩序ノ恢復並ニ此事ニ專ラニシ
テ、遂ニ海運業ニ向テ多大ノ力ヲ爲スト云フコトハ、極メテ乏シキコトヲ考ヘルデア
リマス、シテ見マスルト海運ノ不振ハ即チ貿易ノ不振ヲ爲ス所以デアリマスルカラ、益
我國ガ東洋ノミナラズ、其他ニ於テ貿易關係ノ擴大ヲ見ルコトハ、疑ヒナイト考ヘルデア
リマスガ、斯様ナ場合ニ於キマシテ此組製造防止ハ一面ニ於テハ組製品ノ廣告ヲ爲スト云
フコトノ結果ニ陷ラウト考ヘルデアリマス、然ラバ、此案ハドウデアアルカト申シマスル
ヲ立ツル必要アリト認ムルデアリマス、此案ハドウデアアルカト申シマスル、工場
法案ノ施行ニ伴ヒマシテ検査官ヲ置クト云フヤウナ制度ガ實施サレルデアリマス、
此等ノ制度ニ則リマシテ、各種重要物產ノ同業組合ト聯絡ヲ爲シ及ヒ監督ヲ爲シ、
統一ヲシ、又先刻滿場一致御決議ニナリマシタ商業會議所ガ今後ニ於ケル活動ノ
資力ヲ得タデアリマス、此等ノ聯絡ヲ保チ、商業會議所ガ今後ニ於ケル活動ノ
モノモ設ケ、而シテ是等ノ製造品ニ對スル相當ノ法案ヲ以テ、將來ノ計ヲ爲スハ極メテ
緊要ノ事ト考ヘルデアリマス、諸君モ御承知ノ如ク農業組合ガ産米検査ノ實行ヲ致
シマシタカラ、其成績ニ付テ見ルベキモノガ多イト云フコトハ疑ヒナイデアリマス、此等ノ
事例ニ鑑ミマシテモ之ニ對スル相當ノ施設ヲ爲シ、相當ノ立法ヲ爲シテ此取締ヲ、將
來ノ計ヲ爲スト云フコトハ最モ必要ト考ヘルデアリマス、商業會議所ハ此頃ノ會頭會
議ニ於テ時局ニ關スル建議ト致シマシテ、第一工業ノ基礎ヲ確立スルコト、第二對外
商業ノ基礎ヲ確立スルコト、此等ニ對シテ當局者ニ意見ヲ開陳サレテ居ルヤウデアリマ
ス、此事ハ極メテ緊切ニシテ大ニ見ルニ足ルモノト考ヘルデアリマス、此說明ニ附
加ヘテ御承認ヲ得テ、是ハ速記録ニ掲載シテ置キタイト思ヒマス、同時ニ之ヲ以テ私ハ
說明ヲ省略シタイト考ヘルデアリマス、何卒諸君ニ於テモ御賛成ヲ願ヒマシテ、一日モ
速ニ本建議案提出ノ趣旨ヲ達スルヤウニ致シタイト存ジマス

〔參照〕

時局ニ對スル建議

歐洲ノ戰亂勃發シテ茲ニ一年有半戰局日ヲ逐フテ擴大シ歐洲ニ於ケル社會各方
面ノ秩序ハ全ク破壊セラレテ剩ス所ナク、唯僅ニ戰時經營ノ一事ニ汲々タルノ狀況ヲ
呈セリ而シテ其ノ影響ハ全世界ニ波及シ我國ノ如キ經濟上ニ於テ殊ニ甚大ナル刺激ヲ
受ケタリ故ニ全國商業會議所ハ曩ニ大正三年十月ヲ以テ聯合會ヲ開キ戰時經營
ニ關スル施設トシテ政府ノ爲スヘキ臨機應急ノ策ヲ建議シ且戰局ノ推移ニ伴ヒ官
民一致努力經營スヘキ事項トシテ國產ヲ振興シテ產業ノ獨立ヲ計ルコト商工業者
ノ協同ヲ計リ產品ノ改良、販路ノ擴張ニ努ムルコト產業資金ノ圓滑ヲ計ルコト實業

教育ヲ改善擴張スルコト貿易誘導ノ機關ヲ設クルコト定期航路ノ統一擴張ヲ圖ル
コト輸出品ニ對シ検査法ヲ設クルコト爲替資金ヲ潤澤ナラシムルコト關稅法規ヲ改
正スルコト行政財政ノ整理ヲ斷行スルコト十項ヲ舉ゲ其ノ理由ヲ詳説シテ政府當
局ノ明鑑ヲ仰キタリ爾來政府ニ於テモ或ハ當業者ヲ指導シテ共ニ海外市場ノ販路
ヲ觀察シ或ハ特種工業保護法ヲ設ケテ産業ノ獨立ヲ企圖セラレントスルカ如キ漸次
之カ遂行ニ努力セラレツツアルハ大ニ多クスル所ナリト雖モ歐洲ノ戰局ハ容易ニ終局
ヲ告クルニ至ラスシテ我國ノ蒙ル影響ハ彌々重大ヲ加ヘントス故ニ吾人ハ政府當局
ト共ニ更ニ一層ノ注意ヲ以テ將來ニ對スル方針ヲ確定スルノ最モ必要ナルヲ認ムルモ
ナリ

思フニ現時ノ戰亂ニ伴フ世界産業上ノ變態ハ古來未曾有ノ現象ニシテ輸出貿易ニ
優越ノ地位ヲ占メタル歐洲列國ハ一轉シテ輸入國トナリ軍需品ニ普通品ニ之ヲ
他國ニ需ムルノ止ムナキニ至リタルノミナラス歐洲列國ヨリ輸入ヲ仰キタル南洋南米
ノ諸邦ハ轉シテ之ヲ東洋及ヒ北米ニ仰クニ至リタリ是レ昨年ニ於ケル我貿易ノ順調
ヲ呈シタル原因ニシテ即チ戰時ニ於ケル一變態タルニ過キス故ニ是ヲ以テ直ニ我財界
ノ前途ヲ樂觀スルカ如キハ吾人ノ決シテ執ラサル所ナリ何トナレハ若シ現時我邦ノ商
工業ニシテ歐米諸國ノ列ニアランカ輸出貿易ハ更ニ一層ノ盛況ヲ呈シ世界ノ市場ニ
雄飛スルモノアリタルヤ疑ナケレハナリ即チ吾人ハ昨年ニ於ケル我輸出貿易ノ實況
ニ鑑ミ獨リ之ヲ樂觀セザルノミナラス却テ我邦商工業ノ規模更ニ歐米諸國ニ及ハサ
ルノ遠キヲ知悉シ以テ今後之レカ改善發達ヲ全圖スルノ急務ナルヲ認メタリ況ンヤ歐
洲戰局ノ前途ハ漠トシテ之ヲ知ル能ハス經濟界ノ波瀾益々重疊シ戰後ノ經營彌困難
ヲ加フルニ於テ吾人ハ深ク内外ノ事情ヲ考究シ以テ我國經濟ノ基礎ヲ確立スルニ努
メサルヘカラス依テ茲ニ其ノ希望ノ要項ヲ舉ゲテ所思ヲ明カニセントス

一、工業ノ基礎ヲ確立スルコト

歐洲戰亂ノ結果世界ノ需用ハ北米及極東ノ一部ニ集中シ之ヲ爲メニ我國ニ於ケル
對外的工業ハ概シテ殷盛ノ狀ヲ呈スト雖モ竊ニ其ノ實勢ヲ精査スレハ輸入原料ノ
不足及ヒ之ニ伴フ價格ノ騰貴ハ更ニ大ニ發展スヘキ工業ノ進運ヲ阻礙スルノ觀ナキ
能ハス是レ蓋シ從來ノ工業ノ施設往々不備ニシテ工業ノ基礎タル原料品ハ多ク
之ヲ海外市場ニ仰キタルニ因ル故ニ一度其ノ輸入杜絶スルヤ即チ現時ノ如キ狀勢ヲ
呈ス是レ吾人ノ大ニ遺憾トスル所ナリ依テ吾人ハ此際國家工業ノ獨立ヲ企圖スルノ
目的ヲ以テ先ツ理化學研究所ヲ速設シテ廣ク工業發展ノ要素ヲ作ルト同時ニ一面
ニ於テ極力製鐵事業ノ振興ヲ助成シ機械工業ノ發達ヲ促進スルハ今日ニ於ケル最
大急務ナリトス而シテ如上ノ事業ニシテ完整センカ從來我國ニ於テ最モ幼稚ナリシ
各種ノ工業ハ鬱然トシテ勃興シ以テ始メテ歐米諸國ト相伍スルニ至ラントス然レトモ
此等各般ノ事業タル必スモ之ヲ民業ニミ放任スル能ハサルモノアルヘキカ故ニ政
府當局ニ於テハ亦深ク此ニ留意シ官民一致提携誘導シテ以テ之カ完成ヲ期セシ
ト切望ニ堪ヘサルナリ

二、對外商業ノ基礎ヲ確立スルコト

昨年末我國ノ對外商貿易ハ空前ノ盛況ヲ呈シタリト雖モ詳ニ其ノ内容ヲ查察スレハ
一ニ之レ歐洲戰亂ノ結果供給不足ノ止ムヲ得サルニ出タルモノニシテ決シテ永遠
ニ此趨勢ヲ持續スヘキモノニアラス然レトモ一度此好機ニ際會シ永ク此大勢ヲ保
持スルハ亦吾人ノ最モ努ムヘキ要務ナリトス而シテ之レカ方法ニ就テハ曩ニ屢政府當

局ニ建議シタリト雖モ更ニ重ネテ其緊急止ムナキモノヲ言ハシカ船腹ノ不足ヲ補充シ
航路ノ新設擴張ヲ期スルハ其ノ一ニシテ爲替銀行ノ規模ヲ擴張シテ對外金融ノ圓
滑ヲ計ルハ其ノ二ナリ而シテ內ニ於テハ輸出品検査ノ施設ヲ擴張シテ弘ク粗製濫造
ノ弊ヲ矯メ外ニ對シテハ東洋南洋方面ニ於ケル通商條約ヲ改訂シテ相互貿易ノ發
達ニ利スルカ如キ亦大ニ必要ナル時務ナリトス之ヲ要ムルニ内地工業ノ發展ヲ促進スル
ト共ニ對外商業ノ擴張ヲ期スルハ國家經濟政策上最大要務ニシテ而シテ今日ハ實
ニ之ヲ遂行スル最好時期タルヲ信シテ疑ハサルナリ

以上ハ是レ吾人カ時局ニ對スル希望ノ要件ニシテ官民共ニ之レカ遂行ニ努力セシ
ト切望シテ止ムサル所ナリ而シテ吾人ハ更ニ戰局ノ推移ニ伴ヒ戰後ニ於ケル世
界ノ大勢ヲ推測シ深ク大ニ戒心ヲ要スルモノアルヲ覺悟セサル可ラス思フニ歐洲ニ
於ケル各交戰國ハ戰亂不定後先ツ意ヲ財界ノ恢復ニ注キ正貨ノ爭奪、産業ノ恢
復、國債ノ償却、國富ノ促進等ニ對シテハ全力ヲ傾倒シテ止マル所ヲ知ラサルヘシ而
シテ此際ニ當リ我國モ亦世界ノ市場ニ於テ之ト共ニ相馳騁セサルヘカサルハ是レ自
然ノ趨勢ニシテ吾人カ今日ニ於テ商工業ノ基礎ヲ確立セントスルモノ實ニ此戰後ニ
處スルノ準備タルニ外ナラサルナリ而シテ以上要望ノ諸點ニ關シテハ別ニ口頭ヲ以テ
詳細具申セントス願クハ政府當局ニ於テ吾人ノ意ノアル所ヲ察シ舉國一致國家商
工政策ヲ確立ヲ期センコトヲ茲ニ所見ヲ開陳シテ謹ミテ明鑑ヲ仰ク

○福田又一君 本案ヲ議長指名九名ノ委員ニ付託シ審査サレムコトヲ望ミマス

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 福田君ノ御説ニ御異議ガナイモノト認メマス、福田君ノ説ノ
通りニ決シマス——日程第二十七、名古屋富山間鐵道建設ニ關スル建議案、提出者
三輪市太郎君

第二十七

名古屋富山間鐵道建設ニ關スル建議案(三輪市太
郎君外一名提出)

名古屋富山間鐵道建設ニ關スル建議案

名古屋富山間鐵道建設ニ關スル建議案

一愛知縣下名古屋ヨリ飛騨國ヲ貫通シテ富山縣下富山ニ至ル鐵道

右鐵道ハ東海道線ト北陸線トヲ連絡スル爲名古屋富山間ニ敷設スル捷路線
ニシテ其ノ延長百四十五哩ヲ算シ之ヲ既成線ニ比スレハ距離ヲ短縮スル著大ナルモ
ノアリ則チ既成ノ北陸線ニ由レハ此ノ間ノ距離ハ二百三哩、中央線ヲ迂回スレハ
二百七十七哩ニシテ而モ兩線共ニ日本海海岸ニ沿フヲ以テ一朝有事ノ際軍事上
危險ノ虞ナシトセス然レニ本線ノ敷設成ルニ於テハ此ノ虞毫モ之レナキノミナラス距
離ヲ短縮スル實ニ此ノ如シ加フルニ第九師團ト第三師團及第十五師團トノ軍事上
交通ヲ便ナラシメ其ノ起點ハ名古屋港及四日市港ヲ控ヘ沿線ニハ尾張國小牧
町、犬山町、美濃國太田町、金山町、飛騨國下呂町、高山町、越中國猪谷町等
ノ小都會ヲ擁シ各地商工業ノ發達ニ資スルハ勿論此ノ間無限ニ包藏スル大森林及
鑛物ハ之ニ依テ開發セラレ殖産興業上其ノ效果ノ顯著ナルモノアルヘキハ疑ヲ容レ
實ニ本鐵道ノ敷設ハ軍事上及經濟上一日モ忽諸ニ附スヘカサルモノナリ故ニ政府
ハ速ニ本鐵道ノ敷設ニ著手シ以テ國運ノ發展ニ資セラレムコトヲ望ム

右建議ス

○三輪市太郎君 簡單アリマスカラ自席ヨリ説明ヲ御許シテ願ヒタイ
○議長(島田三郎君) 宜シウゴザイマス

○三輪市太郎君 本案ハ屢々本議會ニ建議ヲ致シマシテ、滿場一致ヲ以テ通過致シテ居ル案デゴザイマス、申スデモナク其點ハ名古屋市テ、附近ニハ四日市アリ、名古屋港アリ、又三師團、十五師團等モアリ、軍事上必要ナル而モ其地位ハ日本内地ノ本土ノ中央ヲ橫斷スルノ線路デアリマシテ、言換ヘテ見レバ東海道線ト北陸線ヲ聯絡スル線路デゴザイマシテ、海軍ノ軍事政策ノ上ニ於キマシテモ現在ノ鐵道ハ北陸線ハ日本海ニ沿ヒ、東海道線ハ申スデモナク太平洋ニ沿ッテ居ッテ、洵ニ一朝有事ノ場合ハ現在ノ線路ハ危險ナルカラシテ、此北陸線ト東海道線ヲ聯絡シタラバ如何ニモ軍事上有利ナリト云フコトハ、是迄ノ本會ニ於テモ當局者ガ是認致シテ居ルトコノ線路デゴザイマシテ、曩ニ四田君ヨリ提出サレマシタル飛驒鐵道ナルモノト其線路ハ同ジ目的デアリマスガ、飛驒貫通ノ線路ナルモノハ岐阜縣ノ太田ニ於テ止マルモノデゴザイマスガ、之ヲ延長シテ中京トモ謂ハルベキ名古屋ニ聯絡スル、即チ富山、名古屋間ヲ直通スルト云フ線路デゴザイマスガ、此線路ハワレガタメニ二十哩ホドノ延長ニナリマスガ、此延長スルトロノ線路ハ御承知ノ如ク平坦デアリマシテ、工事費モ一向要サヌ所デアル、鐵道院ニ於テモ此線ハ如何ニモ良イ線ト云フコトハ曩ニ委員付託ノトキニ贊成サレタ線デゴザイマスカラ、ドウカ滿場一致ヲ以テ御贊成アラムコトヲ希望致シマス(拍手起ル)

○福田又一君 本案ヲ曩ニ提出セラレタルトコロノ岐阜多治見間鐵道速成ニ關スル建議案外二件ト同一委員ニ付託シ、審査セシメラレムコトヲ望ミマス
○議長(島田三郎君) 福田君ノ說ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)
○議長(島田三郎君) 御異議ガナシト認メテ福田君ノ說ノ通りニ決シマス——日程第二十八、區裁判所復舊ニ關スル建議案——提出者福井三郎君

第二十八 區裁判所復舊ニ關スル建議案(福井三郎君外三名提出)

區裁判所復舊ニ關スル建議案

政府ハ行政整理ノ名ノ下ニ大正二年四月全國百二十八箇所ノ區裁判所ヲ廢止セリ而シテ之ニ由リ削減セラレタル金額ハ僅々二十萬圓内外ノ少額ニ過キス然ルニ此ノ區裁判所廢止ノ爲直接間接ニ被ルコトノ住民ノ損害ハ頗ル多大ナルモノアリ斯クノ如キハ行政ノ整理ニ非スシテ寧ロ制度ノ改惡ナリト信ス故ニ政府ハ速ニ廢止セラレタル全國各區裁判所ヲ復舊セラレムコトヲ望ム

右建議ス

(福井三郎君登壇)

○福井三郎君 諸君、此建議案ハ三十六議會ニ於キマシテ吾々ノ僚友樋口秀雄君ヨリ提案ニナッタデアリマス、其際ニハ滿場一致ヲ以テ御贊成ニナッタデアリマス、トコロガ政府ニ於キマシテハ財政上ノ御都合デ、未ダ是ガ目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアリマス、爲メニ再ビ此ニ本案ヲ提出スルコトヲ餘儀ナクサレタルデアリマス、大正二年松田司法大臣ノ時代ニ於キマシテ、行政整理ノ名ノ下ニ廢止サレマシタル百二十八箇所ノ區裁判所全部ヲ復活サレタイト云フノガ本案ノ趣旨デゴザイマス、尤モ此行政整理ハ當時天下ノ問題ニナツテ居リマシテ、詞ヲ換ヘテ申シマスレバ時代ノ要求トモ言フノデ

ゴザイマセウ、無論經濟的整理ヲ目的トシタノデアリマス、然ルニ當時故松田法相ニ依テ整理サレマシタル金額總計約五千萬圓デアリマシタ、所ガ其中是ハ司法部内全體ヲ縮少サレタル金額デゴザイマシテ、其中大審院控訴院等節約シマシタル金ハ約六七萬圓デアリマシタ、又二地方ノ支部ノ公判ヲ廢止致シマシタル數ガ五十二箇所、其民刑事ノ全部ヲ廢止タモノガ五十箇所デ、刑部ノミヲ廢止タモノガ三箇所デゴザイマス、約是マデハ十七萬圓ヲ節約致シマシテ、私ガ本問題ト致シテ居リマス區裁判所百二十八箇所ヲ廢止タルヨリ生ジマス節約約高ガ約十九萬七千圓デアリマス、是ヨリ私ガ提案致シマシタル區裁判所ノミニ付テ些カ說明シタイト思フ、諸君、全國デ百二十八箇所ノ裁判所ヲ廢セラレマシテ、ソレヨリ節約シ得マシタル金ハ約二十萬圓ニ足リナイデアリマス、成程二十萬圓ノ金高ハ大金デアリマスガ、一裁判所ニ之ヲ割當テマスト約千五百圓ヅ、ノ經費ノ縮小ニナツテ居ルノデアリマス、ソレデ裁判所ヲ廢シマシタル爲メニ、從ッテ政府ノ收入ヲ減少シテ居ルノデアリマス、之ガ概算致シマシテ一裁判所ニ約五百圓ト見マシテモ、ソマリ縮小シマシタル金額收入ニ依テ減少シタル差引致シマスルト、一裁判所ニ一千圓、此金高ヲ見積リマス高ト百二十八箇所デ十二萬八千圓デアリマス、ソレカラ是ハ行政整理ニ依テ減少シタル金高デゴザイマスガ、ソレカラ支出ニ於テ俄ニ増加シタルモノガアルデアリマス、ソレハ十四萬三千圓以上デゴザイマスガ、是ハ司法部内ニ於テ大審院控訴院及ヒ地方支部ヲ廢止タル結果ト致シマシテ、司法官ニ退職ヲ命ジタ、退職ヲ命ジタ、是ガ退職給付アル、御承知ノ如ク司法官ハ憲法ノ保障ニ依リマシテ、濫リニ轉任及ヒ休職退職ヲ命ズルコトハ出來ナイト云フ保障ノアルニモ拘ラズ、之ヲ退職サシタルデアリマシテ、ソレデ非常ニ優待シテアルデアリマス、私ノ知り得タル所ニシテ見マシテモ、斯ウ云フ例ガアルノデアリマス、丁度此行政整理ヲヤリマス前ニ一千圓テ居リマシタル判事が、整理前ニ二百圓増俸致シマシテ整理發表ノ際ニ之ヲ千五百圓ニシ、サウシテ其奉職シテ居リマス繼續年限ガ二十五年以上デゴザイマシタル爲メニ、一分ノ一ノ退職給付給シタルト云フ事實ガアルデアリマス、サウシマス一箇年最モ神妙ニ熱心ニ忠實ニ働イテ一千圓ノ俸給ヲ貰フテ居リマス者ハ、退職サレマシテ七百五十圓ト云フ遊ンデ俸給ヲ貰フト云フコトナル、ソレデ之ヲ見マシテモ退職者ニ對シテ其優待ノ程度ヲ想像スルコトガ出來ルダラウト思フ、謂ハハ一種ノ高等ノ遊民ヲ製造シタルト云フモ宜シイデアリマス、ケレドモ此場合ハ大問題ニ對スル小問題デアッテ、此行政財政ノ二問題ヲ解決シマスルトキハ、蓋シ已ムヲ得ナイコト、私モ信ジテ居ルデアリマス、一面ニ於テハ退職司法官ノ優待ヲ爲シ、一面ニ於テハ裁判所ノ數ヲ縮少致シマシテ、ソレヨリ得マシタル金高ヲ以テ殘ッテ居ル司法官ニ増俸ヲシタルト云フ事實ガアル、是ハ行政官司法官ト俸給ノ權衡ヲ取レナイト云フ事實ノ下ニヤッタデアリマス、サウシテ見マスルト成程日本全國デ百二十八箇所ノ裁判所ヲ廢シテ行政ノ整理ヲヤツタト云フコトハ、如何ニモ大成功ノヤウナ形ニハナツテ居リマスルガ、其經濟上ノ實質及結果ニ於キマシテハ、一方ニ於テハ十四萬三千圓ト云フ金ヲ退職者ノ優待ニ充テ、一方ニハ現在殘ッテ居ル所ノ在職司法官ニ對シテ増俸スルト云フコトニナリマシテ、サウシテ行政整理ノ美名ノ下ニ縮少シ得マシタル金高ハ、遂ニ司法官優待ノ爲メニ取去ラレテシマッタト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、丁度章魚ノヤウデアリマスシテ、手ヤ足ヲ切ッテ營養ニ充テ居ルト云フコトニナツテ居ル、私共ハ少シ誤解カモ知レマセヌガ司法省ノ門前司法省ノ玄關前ノ庭前ヲ飾ッテ居リマス松田故司法大臣ノ銅像ハ、無言ニシテ此事實ヲ語ッテ居ルモノト云フテモ決シテ誣フル言葉デナト信ズルノデアリマス、此見地ヨリシマシテ本員等ハ是非此裁判所ノ復活ヲ絶叫スルノ

デゴザイマス、以上申上テマシタ如ク假リニ此數字ノ上ニ現ハレテ居リマス如ク、全國デ
百二十八箇所ノ裁判所ヲ廢シテ約二十萬圓ノ金高ヲ即チ行政費ヲ節約シ得タトシマ
スルモ、之ガ爲メニ此部内ノ人民ノ被リマス所ノ損害ハ實ニ甚大ナモ、デアルノデアル、
假リニ一裁判所部内ノ人民ガ其數十萬人ト看做シテモ、百二十八箇所ニ對シテハ千
二百八十萬圓、約千數百萬圓、部内ノ人民ガ利害休戚ニ關係スルノデゴザイマス、諸
君御承知ノ如ク裁判所ヲ廢セラレタニ付キマシテハ、一千數百萬圓ノ人民ノ被リマス
損害ハ第一訴訟費用ノ實費ノ増加、ソレカラ時間ノ經濟ニ非常ニ損害ヲ來スコト、延
テ地方ノ金融及ビ財政ノ狀態ニ非常ナル影響ヲ受ケルト云フコトニナルノデゴザイマ
ス、申スマデモナク一日カ半日デ區裁判所ニ出マス、訴ヘラレ或ハ訴ヘニ出マス用ヲ辨
ズルコトヲ——廢止サレマシタ後ハ大變距離ガ遠クナリマシタ結果トシマシテ、一日五十
錢カ一圓使テ居ル者デモ二圓使ヒ、若クハ三圓使ヒ、半日カ一日デ用ヲ辨ゼラレタノ
ガ數日間時間ヲ費ス、斯ウ云フ風ニナルノデゴザイマス、ソレカラ地方ノ金融財政ノ
狀態ニ關係致シマスカト申シマス、裁判所ヲ廢セラレマシテ一部ニ併合サレマシタ結
果ト致シマシテ、執達吏ガ其所在地ニ行テシマフ、ソレデ何レノ場所ニ致シマシテモ區
裁判所ノ設置サレマシタ箇所ハ何處デモ餘リ變ラナイト思フ、其土地ノ商業及ビ工業
總テノ狀態ニ於テ變ラナイ、免モ角田舍ノ一小都會ヲ爲シテ居ル場所デゴザイマス所ガ、
約束手形トカ或ハ爲替手形トカ申シマスヤウナ商事ニ關係シタ手形上ノ取引ナンカデ
モ、執達吏ガ居ラスガ爲メニ其手形上ノ權利ヲ失フコトヲ云フコトガ往々アル、ソレガ爲メニ
銀行ナンカデモ約束手形爲替手形ノ割引ニハ、一層警戒ナリ注意ヲ要シ、又御承知
ノ通り區裁判所ハ二百圓以下ノ金高ニ關係スル民事上ノ訴訟ヲ取扱ヒマス場所デ
ゴザイマスガ、裁判所ガ遠クナッタガ爲メニ二百圓以下ノ小サイ金高ニ關係シマス貸借
ト云フコトモ、是亦非常ニ警戒スルコトニナルノデゴザイマス、ソレガ爲メニ地方ノ金融及
ビ財政ニ關係ヲ及ボシマス、遂ニハ地方ノ産業ニ非常ニ損害ヲ與ヘルヤウニナ
ルノデアリマス、又非訟事件ニ關シ或ハ人事ニ關係スル事件ノ如キ、例ヘバ親族會議ナ
ドヲ開キマス場合ニデモ、近イ場所デゴザイマスナラバ甚ダ便利デゴザイマスケレドモ、遠
隔ニアリマスルコトニ付、多數ノ者ガ裁判所ニ出テ行カナケレバナラヌ、聽クトコロニ依リ
マスレバ東北ニ於テモ此ノ裁判所併合ノ爲メニ數十里——二十里以上モ通ハナケレバ
ナラヌト云フ不便ノ場所モ出來テ居ルト云フコトヲ聽イテ居リマス、私共ノ選出サレテ居
リマス關西ノ地方ニ於テモ、以上申上テマシタ如ク非常ニ損害ヲ受ケテ居ル感シテ
居ルノデアリマス、既ニ此ノ行政整理ノ結果ト致シマシテ、裁判所廢止以來當議會ニ
對シテ毎年此ノ請願書ノ數十通、若クハ多數ノ請願書ノ出マス云フコトモ、決シテ是
ハ根據アリコトデナイノデゴザイマス、唯諸君ノ中ニハ地方問題トシテ地方ノ者ハ裁判
所ガアレバ便利デアルト云フヤウナ簡單ナ考ヲ以テ之ヲ見テ居ラレカ知レマセヌガ、私共
ガ見マシタコロニ依リマスレバ、ナカク——是ハ國家ノ決シテ小問題デナイ、一地方ノ問
題デゴザイマセヌ、國家ノ上ニ重大ナル問題ト見ナケレバナラヌノデゴザイマス、以上述ベ
マシタ如クツマリ財政上ノ點カラ見マシテ、或ハ時間經濟ノ上カラ見マシテモ、直接間接
之ガ爲メニ種々ナル損害ヲ受ケテ居リマスルコトハ、決シテ政府ガ苦心慘憺シテ非常ニ大
キナ額ヲシテ自慢ラシテ居リマスル此行政整理ヨリ絞リ得マシタ僅カ二十萬圓ノ金ト、
一千二百八十萬人ノ部内人民ノ蒙リマス損害迷惑ハ決シテ比較對照ニナルモノデハ
ゴザイマセヌ、吾々國民ノ望シテ居リマスル行政整理ハ、斯ノ如キ意味ノ行政整理ヲ決
シテ歡迎シテ居ルノデハゴザイマセヌ、此行政整理ノコトヲ裁判所ノ復舊ノ建議ニ對シテ

免ヤ角云ヒマスルコトハ、甚ダ問題ニ遠ザカッテ居ルヤウデモゴザイマスガ、根本ガ是デアリマ
ス、根本ガ此行政整理カラ起テ裁判所ヲ廢シタト云フ結果ヲ見、多數人民ガ非常ナ
ル損害迷惑ヲ受ケテ居ルノデゴザイマスカラ、其點ニ於テハ言ハザルヲ得マセヌ、尙將來
政府ガ行政整理ナンカヤラレバヤウナ時代ガゴザイマスナラバ、名バカリ立派ニ御飾リ下
サイマシテモサテ實行——其内容實質ニ至リマシテ斯ノ如キコトハ吾人ノ甚ダ賛成シ得
ザルトコロデゴザイマス、故ニ此事ヲ申上テタノデゴザイマス、以上ノ理由デゴザイマス、
希クハ本會ニ於キマシテモ、前會同様満場一致ノ御賛成ヲ下サルモノト確信致シマス、
尙政府ニ於キマシテモ以上ノ理由ニ依リマシテ、速ニ設置復舊サレコトヲ希望致スノ
デゴザイマス

○福田又一君 本建議案ハ第二十三ノ日程、地方裁判所支部權限復活ニ關スル
建議案ト同一委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイモノト認メマシテ、福田君ノ說ニ決シマス、次ノ
日程黨籍業振興發達ニ關スル建議案、是ハ提出者ヨリ延期ノ請求ガアリマス、許シテ
御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイモノト認メマシテ、福田君ノ說ニ決シマス、次ノ
十、中等教員優遇ニ關スル建議案、委員長井原百介君

第三十 中等教員優遇ニ關スル建議案(河野正義 (委員長報告))
君外三名提出)

〔井原百介君登壇〕

○井原百介君 中等教員優遇ニ關スル建議案ノ委員會ノ概要ヲ報告致シマス、此
問題ハ文字カラ見マスルコトニ付、頗ル少數ノ人ニ關係シタ問題ノ如ク見ユルノデゴザ
イマス、動モスルト輕視サレ傾ガアリマスガ、吾々委員ハ頗ル重大ナル事件ト認メマシ
テ、殊ニ大臣ノ臨席ヲ乞ヒマシタノデアリマス、而モ是ハ懇談的ニ熱心ニ當局者ノ意見
ヲモ聽キ、尙吾々ノ意見ヲ述ベタ次第デゴザイマス、其結果ト致シマシテ全會一致ヲ
以テ是ハ可決致シタノデアリマス、テ何故ニ斯ク重大ナリ是ガ關係ノアルモノデアルカト申
シマスナラバ、近頃青年ノ不良ノ者若クハ高等遊民甚シキハ危險思想ヲ持テ居ル者
ナドガ出來マス、年齡ハ多クハ此中等教育ヲ受ケル時代デアリマス、又其教育ノ程度ニ
於キマシテモ小學ノ教育ガ終ヘタ者ニハ餘リナイノデアリマス、又高等ノ專門教育ヲ
受ケマシタ者ニハ、尙更サウ云フコトハ頗ル稀アルノデゴザイマス、此大事ナ年齡ニアル
所ノ者ヲ教育スルコトニ付コトハ、國家ノ爲メ頗ル重大ナル關係ヲ有テ居ルト思フノデアリ
マス、故ニ吾々ハ出來得ルガ優遇ヲ與ヘ、是等ノ業ニ從事シテ居ルトコロノ者ニ、社
會カラ精神上ノ若クハ有形ノ快樂ヲ與ヘ安心ヲ與ヘ、而モ喜ンデ其業ニ從事スルコト云
フコトハ最も必要ナル場合ト考ヘルノデアリマス、故ニ兼テ建議ニ此ニ上テアリマス通りノ
案以外ニモ、吾々ノ思ヒ付キマシタ箇條ハ、詳細大臣ニ之ヲ述ベ殆ド全部同意ヲ得マ
シタ次第デアリマス、唯國家ノ經濟上多額ノ經費ヲ要スルコトニ付コトハ、容易ニ
當局者ニ於テモ同意サレヌノデアリマス、是亦吾々ニ於テモ止ムヲ得ナイコト、シテ諒シ
タノデアリマス、其結果ト致シマシテ大臣ハ出來得ル限リ努メテ吾々ノ希望ヲ容レバヤ
ウト云フコトヲ誓ハレタノデアリマス、其中ニ掲テアリマスル事柄ハ此ニアリマスルコトコロノ或
ハ教育勸章、或ハ其待遇、或ハ増俸等ノコトハ全部右ノ次第デアリマスガ、其中ニ待

遇ノ中ニ殊ニ吾々委員トシテ之ヲ附帶ノ決議ト致シマシテ、此席ニ於テ皆サシニ御報告
シテ吳レト御注文ノアツタ箇條ガ二箇條アリマス、其第一箇條ハ校長若
クハ功勞アル教員ハ委任官トスルコト、云フノデアリマス、是ハ是マデハ御承知ノ通り地
方ノ學校ニ於キマシテハ委任官ト云フコトニナツテ、眞ノ高等官委任デハナインデアリ
マス、自然待遇ト云フコト、眞ノ高等官ト云フコトニナルト總テノ扱ヒガ違フデアリマ
ス、例ヘバ敍位ノ如キ敍勳ノ如キ、其他公會ノ場合ニ於テノ總テノ取扱ガ常ニ高等官
ノ下ニ置カル、ト云フコトニナルデアリマス、是等ハ教員ヲ遇シ教員ニ満足ヲ與フルノ
決シテ手段デナインデアリカラ、普通ノ高等官トシテ賞ヒタイト云フ希望デアリマス、之ニ
對シテ政府當局者ハ高等官ト云フコトニナレバ今日ノ制度ニ於テ之ヲ國庫カラ其俸給
ヲ支辨シナケレバナラヌデアアル、是ハ容易ナラヌコトデアアル、ナカ／＼出來ナイコトデア
アルト云フコトヲ以テ、多少反對ヲサレタデアリマスガ、併シ是ハ隨分他ニモ例ノアルコトデ
アリマシテ、官吏トナルト云フコトニナリマシテモ、俸給ヲ地方費カラ出シテ居ルト云フ例
モアルデアリマス、現ニ各郡衙ニ於ケルコトコロ郡書記ノ如キハ是ハ判任デアアルノデ、而
モ其俸給ハ地方費カラ支辨シテ居ルデアリマス、是等ノ例ニ依ッテ致シマスルナラバ、必
ズ高等官ニシタカラテモ、其俸給ヲ出サナケレバナラヌト云フ譯デモナカラウ、必ズ其道
ハ開カル、モノト信ズルデアリマス、此事ハ決シテ經費モ要セズ、僅カニ其制度ヲ改メレ
バ差支ナイコト、信ズルガ故ニ、吾々ハ是非ノヲ實行シテ賞ヒタイト云フ條件ヲ付シタ
デゴザイマス、今一ツハ殆ド各委員カラ御話モアツタデアリマスガ、府縣ノ中等程度ノ學
校ノ校長ハ、多年此業ニ從事シ少ナカラヌ經驗ヲ有テ居ルデアアル、此人ノ上ニ立ッ
テ殆ド監督ノ地位ニ立ツトコロ、此府縣ノ視學官ナル者ガ、僅カニ大學ヲ出テ兩三年
ノ後ニハ直グニ地方ニ來ル、地方ニ來レバ第一理事官トシテ來テ必ズ視學官ヲ兼ネルト
云フコトニナルデアアル、其人ハハドウデアアルカト、云フト數年ノ後ニハ必ズ他ニ轉ジテ警
察部長トナリ或ハ内務部長トナルト云フ唯一時ノ腰掛ノ位置デアアルデアアル、斯ノ如
キ經驗ノナイ、斯ノ如キ腰掛ノ人ヲ之ヲ持ッテ來テ、數十年ノ經歷ノアル所ノ學校長
ノ上ニ据ヘルト云フコトハ、監督上頗ル不都合デアアル、且ツ其地位ニ居ル處ノ者ハ少ナ
カラヌ之ニ不滿ヲ抱クデアアル、獨リ唯私ノ不平デナクシテ其方針等ニ於テ頗ル困難ヲ
來シテ居ルコトガアルデアアル、故ニ此視學官ハ必ズ學校ヲ出タパカリノ、若クハ數年僅
ニ經タトコロノ人デナクシテ、十分教育ニ於テ經驗ノアル所ノ人ヲ視學官ニ採用シテ賞ヒ
タイト云フ其二箇條ガ、即チ附帶ノ希望デアアルデアリマス、殊ニ決議等ハ致シマセヌデ
報告中ニハ掲ゲテ居リマセヌガ、此二箇條ヲ付シマシテ建議ヲ一致ヲ以テ可決シタ次第
デアリマス、宜シク御贊成アラントラ願ヒマス

○福田又一君 本建議案ニ對シマシテハ、委員長ノ報告通り可決セラレンコトヲ望ミ
マス
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(島田三郎君) 福田君ノ議ニ御異議ガナイト認メマス、本案ハ可決致シマ
ス——日程第三十一、財團法人同仁會事業國庫補助ニ關スル建議案——山田珠
一君

第三十一 財團法人同仁會事業國庫補助ニ關ス (委員長報告)

○山田珠一君 財團法人同仁會事業國庫補助ニ關スル建議案ノ委員會ノ願末ヲ

報告致シマス、此案ハ先キニ本會ニ於キマシテ提案者ヨリ詳細説明致シマシタ通り此
財團法人同仁會ハ既往十年ノ間、朝鮮滿洲等ニ於テ醫員ヲ派遣シ病院ヲ建設シテ、
彼ノ地ニ在留シテ居ル内地人ノ治療並ニ朝鮮人支那人ノ治療等ニ從事シテ、殊ニ朝
鮮ニ於テハ彼地ノ醫育ノ事業ニモ種々貢獻スル所ガアツテ、其成績ハ頗ル見ルベキモノガ
アル、殊ニ近年ニ於テハ支那人首府タル北京ニ於テ日華同仁醫院ナルモノヲ作リマシテ、
我が内地ノ同胞並ニ支那人ノ治療ニ從事シテ、頗ル彼我民人ノ信用ヲ博シテ居ル、尙
ホ此同仁會ハ北京ニ於ケル日華同仁醫院ノ事業ノ完成ヲ計ルト共ニ、更ニ進シテ漢
口南京等ニモ醫院ヲ建設シテ一層此事業ノ發達ヲ計ラウト云フ考ヲ持ッテ居リマスケレ
ドモ、此同仁會ナルモノハ資本ハ篤志者ノ寄附ニ依ッテナツテ居ルモノデアリマシテ、十分
思フガ如キ其計畫ヲ行フコトガ出來ヌカラ、此場合ニ於テ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ仰イデ
此計畫ヲ實行シタイト云フ是ガ此建議案ノ趣意デアリマス、之ニ付テ委員會ニ於テハ
提案者ヨリ更ニ一層詳細ナ説明ガアリマシタ、尙各委員ト提案者トノ間ニ質問應答ノ
交換ガアリマシタ後、政府委員ニ對シテ本案ニ關スル所見ヲ叩イタデアリマス、然ル
ニ内務ノ政府委員ハ、此同仁會ノ事業ハ衛生行政ノ立場ヨリ見ルニ朝鮮支那人ニ於テ
計畫シテ居ルトコロノ事業、經營シテ居ルトコロノ事業ハ、頗ル衛生ノ上ニ貢獻スルトコ
ロガ多イ、尙一方カラ觀察スルニ近年内地ノ各醫學校ヨリ年々逐ウテ多數ノ卒業生ヲ
出シテ居ル、此醫學生ノ開業免狀ヲ貰フ者ガ段々ト増加致シマスル結果トシテ内地
ノ人口ノ醫師ノ數ト比較スル、醫師ノ數ガ漸次過剩ノ傾キヲ呈シ來ツテ居ル虞ガアル、
此同仁會ノ事業ガ支那方面ニ於テ發展スルト、此過剩ノ傾キツ、アルトコロノ醫師ノ
前途ニ活動ノ天地ヲ開拓スルコトガ出來ルカラシテ、此點ニ於テモ此同仁會ノ事業ノ
發展スルトハ頗ル喜ブベキコトデアアルト考ヘル、依テ内務ノ當局ハ當テ財務ノ當局ト交
渉シテ、若干ノ補助ヲ此同仁會ニ與ヘラレルト云フコトニシタイト云フコトヲ努メタケレ
ドモ、財政ノ關係上其目的ヲ達スルコトガ出來ナカッタ、今後ニ於テモ財政ガ若シ許ス
ナラバ、此事業ニ相當ノ補助ヲ與ヘルコトハ甚ダ希望スルトコロデアアルト云フコトヲ管
シタデアリマス、又外務ノ政府委員ハ、此事業ハ支那方面ニ當テ多少ノ誤解ヲ受
ケテ、種々事業ノ進捗上ニ障礙ヲ蒙ツテ居タケレドモ、今後此同仁會ノ當事者ノ熱心
努力ノ結果、今日ハ此事業ノ真相モ餘程彼ノ地ノ民人ノ認知スルトコロナツテ、餘程
信頼ヲ増シテ來テ、單リ彼ノ地ニ於ケル内地人ガ幸ヲ享ケルノミナラズ、支那人等ノ間
ニモ大變ニ信用ヲ増スト云フコトニナリマスカラシテ、此事業ガ進歩スレバ我が同胞ガ
支那方面ニ發展スル上ニ於テ餘程助ヲナスノミナラズ、彼我兩國人ノ間ニ於ケル親善
ヲ増ス上ニ於テモ、頗ル貢獻スルトコロガアラウト考ヘル、依テ外務省ニ於テハ是マデ助
ハ爲シテ居ルケレドモ、更ニ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與ヘテ、此事業ノ進歩ヲ助ケルト云
フコトニナツタナラバ、一層彼我ノ親善ノ上ニ莫大ニ貢獻スルトコロガアルト考ヘルカラシテ、
幸ニ財政ガ許スナラバ何トカシテ此目的ヲ達シテヤリタイト云フ希望ヲ有テ居ル、斯ウ
云フ答辯ヲシタデアリマス、依テ更ニ決議ニ移リマシタトコロガ、滿場一致ヲ以テ異
議ナク本案ヲ可決スルコトニ決定致シマシタ、此段御報告ヲ致シマス

第三十二 財團法人同仁會事業國庫補助ニ關ス (委員長報告)

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイト認メマス、本案ハ可決致シマ
ス、日程第三十二、教員鐵道運送ニ關スル建議案、委員會長山口嘉七君

第三十二 敦勸鐵道速成ニ關スル建議案(山口嘉七君外三名提出)(委員長報告)

(山口嘉七君登壇)

(拍手起ル)

○山口嘉七君 敦勸鐵道速成ニ關スル特別委員會ノ願未ラ御報告致シマス、諸君ノ御疲レヲ御察シ致シマシテ一言述ベマシテ止メマス、此委員會ハ公報ヲ以テ通知サレマシタル通り二回委員會ヲ開キマシタ、先ヅ政府委員ノ出席ヲ求メマシテ質問ヲ爲シ且意見ヲモ承リマシタ、此線路ノ哩數ハ約五十一哩デゴザイマシテ北陸山陰線ノ聯絡線デアリマス、此線路ノ目的ハ日本海沿岸ノ鐵道ト云フ大體ノ目的ニナツテ居ルノデアリマスカラ、必要デアルコトハ言フ俟タヌノデアリマス、故ニ政府ニ於テモ此線路ハ急施ノ必要ヲ認メラレマシテ、既ニ一部著手ニナツテ居ルノデゴザイマスカラ、財政ノ許ス限りハ希望ニ應ゼラルベキ意味ノ答辯ヲセラレタノデアリマス、ツレカラ各委員續々質問ノ末、第二十八回議會ノ速記録ヲ取寄セマシテ參考ニ供シ審議ヲ致シマシタトコロガ、政府ハ新發田其他ノ四線路ノ著手ニ付テ、第二十八回議會ニ鐵道敷設法中改正法律案ヲ提出サレタノデアリマス、敦勸線ハ其五線路中ノ一ツデアリマス、然ルニ同時ニ著手サルベキトコロノ他ノ線路ハ業ニ已ニ完成ラシタトコロデハアリマセヌ、全部開通シタルアリ、又大部分完成致シマシテ一部開通ラセラレテ居ルアリ、又竣工期今將ニ到來セントスルガ如キ程度ニ進行シツ、アルノデアリマス、然ルニ敦勸線ノミ不幸ニ致シマシテ漸ク近頃一部工事ノ著手ニ止マリマスルト云フコトハ、其當ヲ失シマスルノミナリマセズ、地方人民ハ動モシマスレバ明世ノ恩澤ニ漏ル、ノ悲運ニ陷ランコトヲ偏ニ同情ニ堪ヘヌト云フ所カラ、委員會ハ唯一人ノ異議者モナク、全會一致ヲ以テ原案ヲ可決セラレタ次第デゴザイマス、依テ御報告致シマス(拍手起ル)

○福田又一君 本建議案ハ委員長ノ報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 福田君ノ發議ニ反對ナシト認メテ本案ハ委員長報告通り可決致シマシタ——次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是デ散會致シマス

午後五時十二分散會